

# リアホナ

表紙の記事——

神会についての預言者の証<sup>あかし</sup>

2ページ

惨めになるために  
召されたのでしょうか  
26ページ

一日市長を務めたマイアメイド  
44ページ

若い女性に進む  
「フレンド」10ページ



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オーグス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリン

グ・ディーター・F・ワークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー, リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラソ・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラー, リンダ・ステール・クーバー, ラリーン・ポーター・ガーント, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・バーラー, ビビアン・ポールセン, サラ・R・ポーター, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェップ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョンズ・ビーム, ニュール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリシ語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原題—International Magazines July 2006. Japanese. 26987 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

**For Readers in the United States and Canada:**

July 2006 no. 7 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——御父と御子と聖霊を信じる  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 14 わしの翼に乗って  
十二使徒定員会 ディーター・F・ワークトドルフ
- 20 義人の歌
- 25 家庭訪問メッセージ——家族を強める
- 30 完全な福音——生まれながらの人を捨てる
- 32 カンボジア——平和への道をたどる国  
マリッサ・A・ウィディソン
- 36 罪の鎖を断ち切る 七十人 H・ロス・ワークマン
- 40 末日聖徒の声  
子供たちを見に行きなさい  
メアリー・リッチ・グッドウィン  
決心したことに忠実に  
ジャスミン・オヘダ  
祝 福  
ジョエル・R・プライアン
- 48 読者からの便り



36 罪の鎖を断ち切る

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、「リアホナ」を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「船、手車、またはテニスシューズで」10ページ——家族みんなで冒険

家になったつもりで、人生の旅を象徴する地図を作ってください。ポルトガルの青少年は、証の中で、天の御父のもとへ戻れるような生活をする助けとなる、個人の特質や福音の原則について述べています。それらを見つけて、地図に書き込んでください。イエス・キリストのもとへ

通じる針路を、勇気をもって地図に書けることを証してください。

「わしの翼に乗って」14ページ——家族に紙飛行機を作って飛ばすように言ってください。本物の飛行機を作るには何が必要か、話し合ってください。ライト兄弟の

話を読んで、飛行が成功する3つの条件を見つけてください。記事を読み、その3つの条件を生活に当てはめる方法を話すように、家族に割り当ててください。

「罪の鎖を断ち切る」36ページ——「霊的に囚われる」の項を読んで、霊



## 青少年

### 9 短いメッセージ

試練のときも笑顔を

マリア・ルイーザ・ゴンザレス・ハロ

10 船、手車、またはテニスシューズで アダム・C・オルソン

24 ポスター——支え合う仲間

26 どなられ、ほえられ、雨に降られ

カタリーナ・ベツツェ・バーヒ

44 一日市長

ポール・バンデンバーグ



26 どなられ、ほえられ、  
雨に降られ



今月号のどこかに隠れている  
CTRリングを捜しながら、  
いつも祈ることを忘れないでください。

的な束縛を招く事柄を具体的に話し合ってください。その答えをたくさん  
の小さな細長い紙に書いていき、鎖  
のようにつなげてください。記事の最  
後の2段落を読んで、救い主が罪の  
鎖を断ち切るのを助けてくださる方  
法について話し合ってください。紙で  
作った鎖の輪を引きちぎり、霊的に束  
縛されないためにはどうすればよい  
かを話し合ってください。

【妹の模範】F8ページ——正直で  
あるとはどのようなことかを、話し  
合ってください。ジェームズ・E・ファ  
ウスト長老の言葉を読んでください。  
この記事や別の記事から、正直や不  
正直について書いてある話を配って

ください。家族が一人ずつ、その話  
を順に音読するか、ロールプレーをし  
ます。それから、正直であることによ  
って受ける祝福について話し合っ  
てください。

【神権の祝福】F14ページ——物質  
的な価値があるものと、霊的な価値  
があるものを見せてください。家族  
に、いちばん価値があるのはどれか、  
選ぶように言ってください。記事を読  
んでから、提示したものをもう一度見  
て、価値があると思う理由を話し  
合ってください。霊的な価値があるも  
のに心を向ける必要があることを、証  
してください。

## フレンド

F2 預言者の声——信仰をもって人生を築き上げる

第一副管長 トーマス・S・モンソン

F4 分かち合いの時間

——天のお父さまはいのりを聞いて

こたえてくださいます

リンダ・マグレビー

F6 ウィルフォード・

ウッドラフ

だいかんちょうの

しょうがいから

——まさにこの地です

F8 妹の模範

シャナ・パトラー

F10 ようこそ若い女性へ

キンバリー・ウェブ

F13 日曜日ボックス

——えんぴつ回し

F14 小さなお友だちへ——神権の祝福

F16 特別な証人——だれでしょう？



F10 ようこそ  
若い女性へ

### 表紙

【イエスにバプテスマを施す(バプテスマのヨハネ)】グレッグ・オルセン画、複写は禁じられています

### 「フレンド」表紙

写真/ミリアム・オリベア・ベルシアニ・ネリ、写真はイメージです

### 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

あがな 贖い	30	信仰	F2
イエス・キリスト	2, 30, 36	神殿	25, 41
祈り	14, F4	人道支援	32
生まれながらの人	30	成長するわたし	F10
開拓者	F6	聖文研究	14
家族歴史	32	聖霊	2, 14
家庭の夕べ	1	選択の自由	14, 30, 36
家庭訪問	25	態度	9, 14, 26
カンボジア	32	罪	36
犠牲	36	伝道活動	26, 32
教育	44	天の御父	2, 14
財政	25	日曜日ボックス	F13
賛美歌	20	標準	44
自制	14, 30	扶助協会	25
従順	F8	ホームティーチング	8, 42
正直	F8	ミューチャル	24, F10
試練	9, 20	模範	10, 41, 42, F8
神会	2	靈感	40
神権の祝福	9, 32, 42, F14	若い女性	F10

## 「わたしたちは、永遠の父なる**神**と……」

わたしは、一点の曇りもなく、無条件で、永遠の父なる神を信じています。  
神は大いなる創造主、宇宙の統治者です。



# 御父と御子と 聖霊を信じる

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

**信** 仰箇条第1条は、すべての教会員に実によく知られています。これはわたしたちの宗教の中枢を成すものです。預言者ジョセフが、教義の基本要素を述べたときにこれを第1としたのには、深い意味があります。

「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」(信仰箇条1:1)

その宣言が非常に重要であることは、預言者の述べたほかの言葉からもうかがい知ることができます。預言者はこう述べています。

「神の属性を確実に知ることは福音の第一の原則です。」(*History of the Church*, 第6巻, 305)

これらのきわめて重要で卓越した宣言は、主の偉大な執り成しの祈りの言葉にも表れています。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3)

何年か前、教会の批判的な敵対者によって書かれたパンフレットを読んだことを思い出します。著者の望みは、弱い人や知識の乏しい人の信仰を覆すことでした。パンフレットには、1世紀以上も前から何度も持ち出されてきた

誤った考えが、繰り返し記されており、それは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である皆さんやわたしが信じていることである、と著者は主張していました。

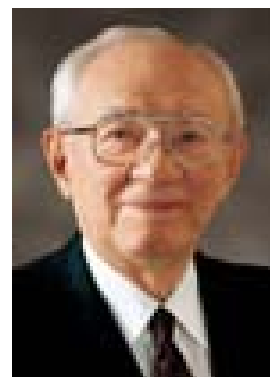
別の信仰を持つわたしたちの友人、大勢の知人、そしてわたしが敬愛する人々と議論するつもりはいささかありませんが、この機会を借りて、すべての神学的なテーマの中でも最も大切なこの事柄について、わたしの見解を述べることにします。

わたしは、一点の曇りもなく、無条件で、永遠の父なる神を信じています。神はわたしの御父、わたしの霊の御父、またすべての人の霊の御父です。大いなる創造主、宇宙の統治者です。神はわたしたちが住んでいるこの地球の創造を指示されました。人は神の形に創造されました。神はわたしたち一人一人を御存じです。実在の御方であり、個人として存在しておられます。「人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられます(教義と聖約130:22)。

## 神にかたどって

地球を創造するとき、神は言われました。「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造[ろう。]」(創世1:26)

これ以上に明白な言葉があるでしょうか。あ



**神会の方々は別個の御方です。しかし、目的と働きは一つです。神の子供たちが救いと昇栄を得るための壮大な神の計画を推し進めるに当たって、一つとなり、一致しておられるのです。**

る人々がわたしたちに思い込ませようとしているように、人が神そっくりに創造されたということは、神の存在を卑しめることなんでしょうか。いいえ、それはむしろ、すべての男女の心に、自分は神の息子、娘であるという、より深い感謝の念を与えるはずで。コリントの聖徒たちにあてたパウロの言葉は、それを書き送った相手の人々に対すると同じように、今日のわたしたちにも当てはまります。こう言っています。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3：16-17)

70年以上も前の出来事です。わたしは宣教師として、ロンドンのハイパークで行われた野外集会で話をしました。メッセージを告げていると、ある人がこうやじを飛ばしました。「ヨハネには『神は霊である』と言われている。聖書の教義から離れるな。」

わたしは聖書を開いて、引用された聖句を全部を読み上げました。

「神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである。」(ヨハネ4：24)

わたしは言いました。「もちろん、神は霊です。あなたもそうです。霊と体が結合して命ある存在となっているのです。わたしも同じです。」

わたしたち一人一人は、霊と肉体の二つの本質を持った存在です。すべての人は肉体の死があることを知っています。また、わたしたち一人一人は、霊が一個の存在として生き続け、神の御子の犠牲により可能となった神聖な計画の下、いつか霊と肉体が再び結び合わされることも知っています。神は霊であられるというイエスの宣言は、神は体を持っておられるという事実を否定するものではありません。それを否定するのは、わたしは霊でありながらも体を持っていることを否定するのと同じです。

わたしの体は、清さ、能力、美しさと輝きにおいて、神の体とは異なっています。神の体は永遠です。わたしの体は死すべき状態にあります。しかし、それは神に対する畏敬の念を深めるばかりです。わたしは「霊とまこととをもって」神を礼拝します。神はわたしの力の源です。わたしは人知を超えた知恵を神に祈り求めます。心と勢力、思いと力を尽くし

て、神を愛するように努めます。神の知恵は全人類の知恵よりも偉大です。神の力は自然の力よりも偉大です。神は全能者にして創造主であられるからです。神の愛はほかのいかなる人の愛よりも偉大です。神の愛は御自身のすべての子供たちを包み込むからです。あらゆる世代の神の息子、娘たちの不死不滅と永遠の命をもたらすことが、神の業であり、神の栄光なのです(モーセ1：39参照)。

### 全能の御父

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3：16)

わたしが畏敬と敬虔の念をもって仰ぎ見るのは全能の御方です。わたしが畏れおののくのはこの御方であり、わたしが礼拝し、誉れと賛美と栄光を帰するのはこの御方です。この御方はわたしの天の御父です。御父は、祈りによって御自身に近づき、話しかけるよう招いておられます。そして、わたしたちの祈りを聞き、それにこたえたと約束してくださっています。

神がその子供たちに与えてくださった光と知識と理解力に感謝しています。また、力と約束をもって永遠の真理について語ってくださった神の声に感謝しています。そしてヨルダンの水で御自分の愛する御子がバプテスマを受けられたときに神が発せられた宣言に感謝しています。このようにおっしゃいました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなる者である。」(マタイ3：17)

変貌の山で神が発せられた同様の宣言に感謝しています。そのとき、神はイエスとその使徒たち、また天使たちに、もう一度言われました。「六日のうち、イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。

すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。

ペテロはイエスにむかって言った、『主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。もし、おさしつかえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。』



**イエスを  
見た者は  
御父を  
見たのであると  
イエスは  
言われました。  
親に似た  
息子について、  
多くの人が  
同じことを言っ  
ていないでしょうか。**

## ……その御子 イエス・キリスト と……

イエスがヨルダンでヨハネからバプテスマをお受けになったとき、  
御父の声が聞こえて、イエスは神の御子であると宣言されました。  
また、聖霊が鳩の形を取って御姿を現みすがたされました



彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。』(マタイ17:1-5)

その御声<sup>みこえ</sup>が再び発せられたことに感謝しています。神はよみがえられた主を西半球の民に紹介し、こう宣言されたのです。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。」(3ニーファイ11:7)

そして、この神権時代に神が御自身を示してくださいましたことに、わたしは畏敬と敬虔と感謝の念を抱きます。御父は、祈りをもって求めた少年に、よみがえられた主を紹介して、こう宣言されました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」(ジョセフ・スミスー歴史1:17)

## ……**聖霊**とを信じる。」(信仰箇条1:1)

**聖霊は真理<sup>あかし</sup>を証される御方です。**

**聖霊は、人々が互いに教えることのできない事柄を教えてくださいます。**

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」(イザヤ9:6)

わたしは、御子はその死すべき生涯において、地上を歩んだ人の中でただ一人の完全な御方であられたと信じています。また、御子の言葉の中に光と真理を見いだせることを信じています。人がそれに従って生活するなら、世は救いを受け、人類は昇栄を得るでしょう。



わたしは、御子の神権に神聖な権能があると信じています。それは、祝福する力、癒す力、地上における神の諸事を統治する力、地上でつながれることを天でもつなぐ力です。

わたしは、御子がその贖いの犠牲、すなわちカルバリの丘で命をささげられたことによって、人類の罪を償われたと信じています。わたしたちが悪を捨てて、御子に従うならば、罪の重荷から解放してくださいます。わたしは、御子の復活が実際にあったことと復活の力を信じています。御子の犠牲と贖いを通して示された神の恵みを信じています。また、御子の贖罪によって、どんな代価を払うこともなく、死者の中から復活するという賜物が一人一人に与えられることを信じています。さらに、その犠牲を通して、神の戒めに耳を傾けて、それに従うすべての男女、神のすべての息子、娘に、御父の王国における永遠の命と昇栄の機会が与えられることを信じています。

### 聖なる救い主、贖い主

かつて地上を歩んだ人で、これほど偉大な御方はいません。イエスに匹敵する犠牲を払った人、また同等の祝福をもたらした人はいません。御子は世の救い主であり、贖い主です。わたしは御子を信じています。そして御子の神性を宣言します。言葉を濁すつもりも、これ以上でも以下でもありません。わたしは御子を愛しています。敬虔に、また畏敬の念をもって、御子の名について語ります。わたしは御父を礼拝すると同じように、霊とまことをもって御子を礼拝します。御子に感謝しています。そして、御子がわたしに注いでくださる愛に驚嘆し、御子の傷ついた両足と両手とわきを前にひざまずきます。

わたしは神が御自身の愛される御子を遣わして下さったことに感謝しています。かつて御子は手を差し伸べて、わたしたち一人一人にこう言われました。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11 : 28 - 30)

御子は復活の初穂として生きておられます。かつて御子がよみがえった主として、力を落としている弟子たちを招かれたように、御子は今日も現実に、確かに、個人として生きて

おられることを、わたしは知っています。主は彼らにこう言われました。「さあ、朝の食事をしなさい。……

……[イエスは]パンをとり彼らに与え、また魚も同じように」(ヨハネ 21 : 12 - 13)。

聖文には、御子が御自身を示し、神の生ける、復活した御子として言葉をかけられた人々のことが述べられています。

同様に、この神権時代にも、御子は御姿を現されました。そして、御子にまみえた人々はこう述べています。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」(教義と聖約 76 : 22 - 24)

この御方こそ、わたしが信じ、証しているキリストです。

### 聖霊

御父と御子に関するわたしの知識は聖文の言葉からのものであり、御二方についての証は聖霊の力によるものです。それは、神会の第3の御方から啓示によって与えられた神聖な、驚くべき賜物です。わたしは霊の御方であられる聖霊を信じています。この御方は、御父ならびに御子とともに座に就いておられます。この御三方は神聖な神会を構成しておられるのです。

神会におけるその位が重要であることは、主の言葉から明らかです。主はこう言われました。

「人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。

また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない。」(マタイ 12 : 31 - 32)

聖霊が過去の時代にも神会の御一方として認められていたことは、アナニヤが土地を売って得た代金の一部をごまかしたときの、ペテロとアナニヤの会話から明らかです。

「そこで、ペテロが言った、『アナニヤよ、どうしてあなたは、自分の心をサタンに奪われて、聖霊を欺(い)たのか。……あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ。』(使

徒5：3-4)

聖霊は神会の第3の御方であり、救い主が約束された慰め主です。この慰め主は、主に従う者たちにすべてのことを教え、また主が語られたことを、ことごとく思い起こさせてくださいます(ヨハネ14：26参照)。

聖霊は真理を証される御方です。聖霊は、人々が互いに教えることのできない事柄を教えてください。モロナイのあの偉大な勧めの言葉の中で、モルモン書が真実であることは「聖霊の力によって」分かると約束されています。次いで、モロナイはこう宣言しています。「そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」(モロナイ10：4-5)

今日、この力、この賜物がわたしたちに与えられていることを、わたしは信じています。

### 3人の別個の御方

わたしはこのように、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じています。

わたしはこの御三方の名によってバプテスマを受けました。この御三方の名によって結婚しました。御三方が実在の、別個の御方であられるということには、何ら疑問の余地はありません。別個の御方であられることは、イエスがヨルダンでヨハネからバプテスマをお受けになったときに明らかにされました。神の御子はそこで水の中に立っておられました。すると御父の声が聞こえて、イエスは神の御子であると宣言されました。また、聖霊が鳩の形を取って御姿を現されました(マタイ3：16-17参照)。

イエスを見た者は御父を見たのであるとイエスが言われたことを、わたしは承知しています。親に似た息子について、多くの人が同じことを言っていないでしょうか。

イエスは御父に祈ったとき、御自分に祈っておられなかったことは確かです。

神会の方々は別個の御方です。しかし、目的と働きは一つです。神の子供たちが救いと昇栄を得るための壮大な神の計画を推し進めるに当たって、一つとなり、一致しておられるのです。

キリストは、裏切りに遭う前に、園で大いなる感動的な祈りをささげられた中で、御自分の愛する使徒たちについて御父に懇願して、こう言われました。

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためです。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためです……あります。」(ヨハネ17：20-21)

御父と御子と聖霊は完全に一致しておられるため、この御三方は一つの神聖な神会として結ばれているのです。

この御三方がわたしたちに関心を寄せ、わたしたちのことを深く心にかけておられることは、奇跡の中の奇跡、驚異の中の驚異です。御三方はわたしたち一人一人とかわりをお持ちです。わたしたちは御子を通して御父に近づきます。御子は神の御座でわたしたちの執り成しをしてくださる御方です。わたしたちが御子という仲保者の名によって御父にお話できることは、何とすばらしいことでしょう。

わたしはこれらの偉大で卓越した真理について、聖霊の賜物と力によって、聖なるイエス・キリストの名により、証します。■

### ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 担当家族に、信仰箇条第1条を暗唱してもらう。神会の御三方それぞれの属性と神聖な役割について話し合う。神の属性に関する、ヒンクレー大管長の伝道中の経験について触れ、担当家族にも神会の御三方に関する自分の証を述べてもらう。

2. 訪問をする前に、3枚の紙を準備し、このメッセージから、神会の御三方それぞれに言及している短い言葉や聖句を選んで、御一方ずつ書き出しておく。訪問中、用意した内容を読み上げ、担当家族にこれらの言葉や聖句は神会のどの御方に関するものか特定してもらう。神会のそれぞれの御方についてのヒンクレー大管長の証を紹介する。

3. 神の属性についてのヒンクレー大管長の言葉を読む。家族に、神を身近に感じた類似の経験について話してもらう。神会の御三方への証を強める方法について話し合う。

# 試練のときも 笑顔

マリア・ルイーザ・ゴンザレス・ハロ

**17**歳のとき、わたしは故郷のグアダラハラを離れ、教会がメキシコの若人のために創設したベネメリト・デ・ラス・アメリカス (Benemérito de las Américas) という学校に進学しました。健康状態はあまり良くなかったのですが、とても楽しい学生生活を送っていました。みんなよく助けたり励ましたりしてくれたのですが、病状は悪くなる一方でした。わたしは自分の体に何が起きているのか分かりませんでした。結局、学校を1週間休んで、検査を受けにグアダラハラへ帰りました。

故郷に帰ると、顔面がすっかりまひしてしまいました。そして、腎不全による重体ということが分かり、入院することになりました。それからの2週間はまったく記憶がありません。母から聞いたところでは、わたしは目が見えず、耳も聞こえなくて、何も食べられなかったそうです。脈拍、呼吸数、体温、血圧といった生命維持に欠かせない機能の数値が芳しくなかったので、医師たちは、助かる可能性はないとさじを投げていたようです。

それでも、母から連絡を受けた監督がすぐに駆けつけて、祝福してくれました。わたしは神権の力を感じました。容態が快方に向かったのはそれからです。しばらくは車いすに乗っていても頭を上げることができず、見ることも聞くこともできませんでした。でも、ワードの会員たちの助けと、断食と祈りのおかげで、わたしの病状は少しずつ快方に向かいました。しばらくは透析を受けていましたが、母が腎臓を提供してくれて移植手術を受けました。ところが、5か月後に強い拒絶反応が出たので、今はまた透析を受けています。そして、もう一度腎臓移植を受けるために提供者を待っているところです。

このような試練はありますが、天の御父はわたしを祝福してくださり、セミナーを卒業し、若い女性の「成長するわたし」を修了できるようにしてくださいました。わたしはそのことにも満足しています。以前のように健康になるまではまだまだ遠い道のりですが、わたしはこのような経験が与えられていることを主に感謝しています。病気を経験して証が強められ、今も毎日強められているからです。わたしたちは皆、永遠の報いが与えられるまで試練を克服しなければならな

いと思います。「わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。……そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27)

わたしが何よりも望んでいるのは、天の御父のみもとへ帰れるようになることです。忠実で従順ならば達成できると知っています。時には天の御父の御心を受け入れるのが難しいこともあります。でも、わたしは試練のときも笑顔を忘れず、この地上での生涯は永遠と比べたら短いことを思い出して頑張っています。

気分がふさぐときには「み恵み数えあげ」(『賛美歌』153番)を思い出して、元気を取り戻すようにしています。この賛美歌を歌っていると、心が安らぎ、感謝の念が込み上げてきます。そして、力を与えてくださった、愛にあふれる天の御父をはじめ、愛してくれる人たちのことを思い出します。■





「発見のモニュメント」に刻まれている  
昔の探検家たちのように、  
ポルトガルに住むカティアナ・シルバと  
その仲間たち(挿入写真)も、  
今を忠実に生きることによって、  
やがて教会指導者となる日を  
楽しみにしています。



レアンドロ・ベドロ、  
ギルヘルメ・アブレウ、  
フランシスコ・シルバ、  
カティアナ・シルバ、  
テレサ・シルバ。



# 船, 手車, または テニスシューズで

ポルトガルでは、  
みたま  
御霊に鼓舞された青少年が  
キリストのもとへ通じる針路をとり、  
良い模範になっています。

アダム・C・オルソン

教会機関誌

レアンドロ・ペドロ(16歳)は、日曜学校で大平原を横断した開拓者の信仰について聞いたことがあります。未知の土地へ向かって歩き続けた彼らの勇氣に、いつもあこがれていました。開拓者のことを考えるとき、レアンドロは母国ポルトガルの歴史に貢献した人たちのことを思い出します。

開拓者が北アメリカの無人の大平原を横断するためには、その前にアメリカ大陸への航路が発見されなければなりません。それに貢献したのが、15世紀後期から16世紀初めの大航海時代に活躍したクリストファー・コロンブス、アメリゴ・ベスプッチ、フェルディナンド・マゼランなどに代表される、勇氣ある探検家たちでした。これらの探検家たちの多くは、ポルトガルで航海術を学んだり、ポルトガル政府の後援を受けたりしていました。

レアンドロとポルトガル・リスボンステークの仲間たちは、テージョ川の向こうにある大西洋に目を向けます。何人もの偉大な探検家たち

は、ここ「発見のモニュメント」のある場所の付近から、未知の海へと乗り出して行ったのです。多くの人たちが、彼らの行く先は地の果てだとか、海水が煮えたぎるほど暑い所だと信じていた時代でした。

しかし、開拓者と同じように、探検家たちは勇敢でした。

「危険な旅でしたから、とても勇氣が要ったと思います」と、ギルヘルメ・アブレウ(13歳)は言います。

カティアナ・シルバ(14歳)も同意見です。「皆が皆、自分たちの成功を信じていたわけではありませんでした。」

「探検家たちが先頭に立ち、ほかの人たちがその後続いたのです」とレアンドロは言います。「彼らには目的がありました。そして、ほかの人たちが彼らの夢を引き継いだのです。」

それは1847年の開拓者たちも同じでした。そして現在の教会の青少年もその多くが同じ立場に置かれています。

## 現代の探検家たち

海図も磁石もなく、人生という航海をやみくもに続ける人が多い危険な世の中であって、先頭に立って導けるのはどのような人でしょうか。だれが先見の明を備えた勇敢な探検家となるのでしょうか。

「それはほくたちです」と教会の青少年を代





表してギルヘルメが名乗りを上げます。「ぼくたちには探検家に必要な信仰があります。ぼくたちは探求もします。探検もします。そして主の御言葉を見いだしてきました。」

ここに集ったポルトガルの青少年は、勇気と信仰をもって、ほかの青少年が自分たちの後に続くよう鼓舞できることを知っています。

「わたしたちが模範を示せば、家族もわたしたちに倣ってくれるでしょう。」こう言うのはテレサ・シルバ(15歳)です。

「友達もぼくたちについて来るようになります」とギルヘルメが言います。

そして数年もすれば、今の青少年が明日の教会を担う指導者となるのです。

「わたしたちはそういう将来に備えなければなりません」とカティアナは言います。

### 危険な海

15世紀には、旧世界でも新世界でも、探検はあまり安全な職業とは言えませんでした。勇気を要する職業だったのです。栄養不良で苦しんだり、乗組員の反乱に遭ったりしました。船が難破してかろうじて生き延びることもあれば、見知らぬ土地で死ぬこともありました。

今の世にも危険はあります。サタンの影響が、この世の嵐をさらに激しくすることがよくあります。

「どこへ行っても、必ず危険が待ち受けています」とカティアナは言います。

カティアナと彼女の仲間は、若い探検家たちがこの世の嵐の中で針路を見失わないようにするには、様々な道具を頼りにするべきだと提案しています。中でもいちばん大切なのが祈りと聖文研究です。

「預言者に従わなければなりません」とレアンドロが付け加えます。

フランシスコ・シルバ(14歳)は、「発見のモニュメント」に刻まれている多くの探検家を見上げながら言います。

「勇気も要と思います。友達にからかわれても自分の信念を貫くのは必ずしもたやすいことではありません。」



### 先頭に立つ勇気

「友である愛する若人の皆さんを神が祝福して下さいますように。皆さんはこれまでで最も素晴らしい世代です。福音をよりよく知っています。自分の義務をより忠実に果たしています。出遭う誘惑に立ち向かう、より強い力を持っています。自分の標準に従って生活して下さい。主の導きと守りを祈り求めてください。主は皆さんを決して一人にはされず、慰め、支えてくださるでしょう。祝福し、強め、皆さんの報いを甘く美しいものとしてくださるでしょう。そして皆さんは、人が皆さんの模範に引きつけられ、その強さから勇気を得ることに気づくでしょう。」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「国民の旗、世の光」

「リアホナ」2003年11月号, 84

もしコロンブスが、人々に受け入れられることの方を心配するあまり、自らを行動へと駆り立てる心の叫びに従わなかったとしたら、一体どうなっていたでしょうか。

### 約束の地

モルモン書の預言者ニーファイは大航海時代を予見して、それが神の靈感に導かれた結果であることを知っていました。

「それで眺めると、異邦人の中に一人の男が見え、その男は大海によってわたしの兄たちの子孫から隔てられていた。すると神の御霊が降ってこの男に働きかけ、この男が大海を渡って、約束の地にいるわたしの兄たちの子孫のところへ行くのが見えた。」

そして、神の御霊がほかの異邦人にも働きかけ、彼らが囚われの身の上から逃れて大海を渡って行くのが見えた。」(1ニーファイ13:12-13)

このような探検家たちが福音の回復のために道を備える役割を果たしたのです。彼らは、





選ばれた14歳の少年を、選ばれたときに、選ばれた場所に置くために神が用意された計画の一部でした。その結果、預言者ジョセフ・スミスによって福音が回復され、世界中の教会員がその祝福と約束を享受できるようになったのです。

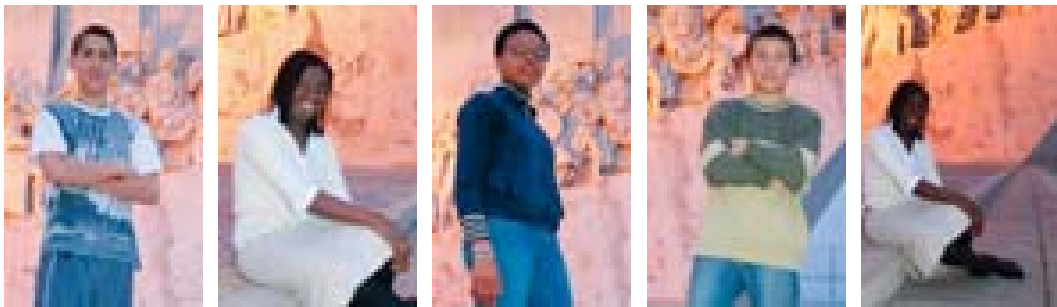
レアンドロと仲間たちは、自分たちも御霊によって「働きかけ」られていると感じています。キリストへの信仰を使って、針路をもう一つの約束の地に向けるように促されていると感じています。その約束の地とは、「水が海をおおって

るように、主を知る知識が地に満ちる」ところです(イザヤ11:9)。そして、彼らの針路はさらに遠く、神のもとまで続いています。

レアンドロは言います。「もしぼくたちが忠実だったら、<sup>けんそん</sup>謙遜で義にかなった人がもっと増えるはずです。」

「ぼくたちが忠実だったら、永遠の命を見いだすこともできます」とギルヘルメが話を締めくくります。

船、手車、またはテニスシューズで旅をしていても、救い主はその行く手を必ず導いてくださいます。■



## ポルトガルの探検家たち

**歴** 史家が大航海時代と呼ぶ時期には、ポルトガルとゆかりのある有名な探検家が数多く活躍しました。その中にはポルトガル人もいれば、ポルトガルで航海術を学んだ人たちやポルトガルの国旗を掲げて航海した人たちもいました。例を挙げてみましょう。

**クリストファー・コロンブス**——東西半球を結んだ歴史的航海で有名なイタリア人探検家。ポルトガルで得た経験が後の成功の基となりました。

**アメリゴ・ベスピッチ**——ポルトガルの国旗を掲げて、つまりポルトガル船籍の船で航海しました。アメリカ大陸(彼の名を取って命名)が島でなく大陸であることを証明したイタリア人の地図製作者です。

**フェルディナンド・マゼラン**——世界で初めて地球一周を成し遂げたポルトガル人探検家。南アメリカの南端、マゼラン海峡を海図に記したことで知られています。

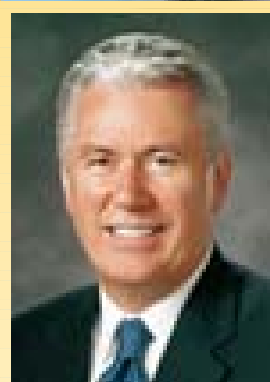
**バルトロメウ・ディアス**——ポルトガル人探検家。ヨーロッパを出発して極東への航路を探しているときに初めてアフリカ最南端の喜望峰を回ってインド洋へ出ました。

**バスコ・ダ・ガマ**——同じくポルトガル人。ディアスの功績を基に、初めてヨーロッパから極東へ出る航路を開拓しました。

**ペドロ・アルバレス・カブラル**——このポルトガル人探検家が、後にブラジルと呼ばれるようになる地をポルトガルの植民地として確立しました。

現在ポルトガルにいる3万7,000人余りの教会員の中で、新しい世代の探検家たちが育っています。ポルトガル・リスボン伝道部は、1974年11月、ブラジルから転任して来た4人の宣教師で組織されました。次いで1987年にポルトガル・ポルト伝道部が、2002年にはカーボベルデ・プライア伝道部が組織され、ポルトガル領のアゾレス諸島とマデイラ諸島もその管轄下に入りました。現在ある6ステークの中で最初のステーク、ポルトガル・リスボンステークは、1981年6月に組織されました。

# わしの翼に乗って



十二使徒定員会  
ディーター・F・ウークトドルフ

**ライト兄弟は、飛行機を飛ばすには飛行機を制御するパイロットと、揚力を生む翼、そして飛行を持続させるエンジンが必要なことを悟りました。わたしたちが地上の生涯を旅して永遠の命という目的地に到達するためにも、同じような原則を当てはめることができます。**

**19**03年12月17日、ウィルバー・ライトと弟のオービルは史上初の動力飛行に成功し、人類の夢を実現しました。飛行距離は約120フィート(37メートル)で、747型ジャンボ機の全長のおよそ半分に当たります。滞空時間は約12秒でした。わたしが747型機のコックピットへ続く階段を上るのに要する時間より短い飛行でした。現在の標準から見れば極端に短い飛行と言えるかもしれませんが、当時は実現不可能と考えられていたような快挙でした。

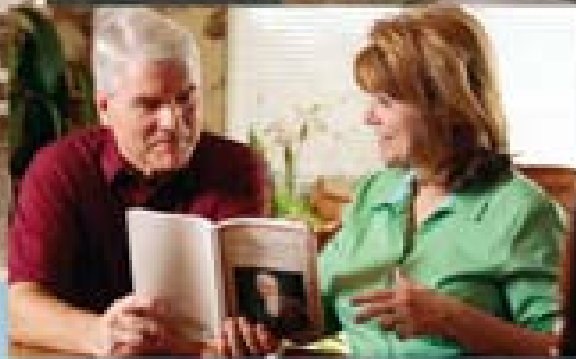
ウィルバーとオービルの両親は子供たちに高い教育を受けるよう励まし、宗教と家族の大切さを教えました。兄も弟も何度も重病にかかりました。成功するかどうか分からない状態で、様々な問題や当惑、そして絶望も経験しました。印刷、自転車修理、自転車製造などの職業を経て、ようやく、飛行機発明家となったの

です。二人は生涯を通じて、いったん何かに取り組みと熱中し、いつも力を合わせて作業に当たっていました。

ライト兄弟は前人未到のプロジェクトに生涯をかけました。そのために周到に準備をしました。先人の研究を評価して学ぶという、謙虚さと賢明さを併せ持っていました。そして、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて、難問に取り組んでいったのです。やがて二人は、飛行機を飛ばすには最低3つの必要条件を満たさなければならないことを悟りました。第1にパイ

印刷：デビッド・マイケル、歴史写真／米国家図書館  
写真の厚紙による複製、写真／ロバート・ケイシー、  
ウエルデン・C・アンダーソン、写真はイメージです





ロットが飛行機を制御できること、第2に翼で揚力を与えること、そして第3に飛行を持続させるためのエンジンを搭載することでした。

二人は目標を設定すると、それを達成すべく毎日熱心に取り組みました。レオナルド・ダ・ビンチはこのように述べています。「星に確実にたどり着くには、途中で後ずさりしないことだ。」<sup>2</sup>

わたしたちが地上の生涯を旅して永遠の命という目的地に到達するためにも、同じような原則や必要条件を当てはめることができます。皆さんがわしの翼に乗って飛ぶごとくに成長できるよう備えるときも、神から授けられた原則を学び、実践する必要があります。

## 1. 自制を身に付ける

わたしたちは、自分が何者であるかということについて霊

的に理解できて初めて、自制を身に付け始めます。そして自制できるようになると、自分の人生を制御できるようになります。世界に影響を与えたいと思ったら、まず自分自身から始めなければなりません。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)は、作者不詳の次の言葉をよく引用しました。「人生における最大の闘いは、人の心の静かな部屋で繰り広げられる。この闘いで勝利は、人生の戦場における何百という勝利に匹敵する。自己を治める者は、境遇をも治めることができる。自分自身を知りなさい。人格の王冠は自制である。」<sup>3</sup>

**わしの翼に乗って  
飛ぶには、  
神から授けられた  
原則を学び、  
実践する必要があります。**

預言者、聖見者、啓示者の助言に聞き従いましょう。預言者は、皆さんが真の自制を身に付けられるよう助けてくれます。

御霊のささやきにみなま従ってください。御霊はあなたの良心に働きかけ、思いと言葉と行いの各面で小さな自制を少しずつ積み重ねることによって、自分自身を磨けるよう助けてくれます。そうすることによって、あなたという人間全体、すなわち思い、

体、霊を自制できるようになるのです。英語の「怒り」(anger)という言葉は「危険」(danger)という言葉とたった1文字しか変わらないことを忘れないでください。

皆さんが選択する事柄は、自制心を映す鏡です。

神から与えられた指示に従い、自制心をもって正しい選択をするなら、永遠の目的地に導かれます。道徳的に清くあってください。思いと心を清く保ってください。思いは行動となって表れます。思いを制御してください。決して誘惑に負けないでください。アリストテレスは次のように言っています。「行動する力があるときは、行動しない力も備わっている。」<sup>4</sup>

コンピューターのマウスやテレビのリモコンを使うときは、賢く自制し、何を自宅や仕事場にもたすか注意して選んでください。本や雑誌、映画、テレビ番組などの娯楽は、不健全な欲望を助長するものではなく、健全で高尚な思いを招くものを選んでください。

## 2. どれだけ高く昇れるかは姿勢で決まる

ライト兄弟は、飛行機が飛び続けるにはパイロットの制御力だけでなく、十分な揚力がなければならぬことを知っていました。辞書では、揚力は下方から上方へ持ち上げたり方向を変えたりするもの、新たな段階や高度に昇る力、重力に反して上方向に働く力であると定義されています。

詩篇の作者はさらに高い目標を掲げています。「主よ、わが魂はあなたを仰ぎ望みます。」(詩篇25:1)「わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。」(詩篇121:1)これは皆さんに対する呼びかけです。鶏とともに地面をつつくのではなく、わしとともに空を舞うよう勧めているのです。

天の神を仰ぎ望むというのは、自分自身の霊性を養う方法を指しています。それは、御父と、救い主である御子と、聖霊の導きに添って生きたいと願う思いです。同時に、ほんとうに「従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従う」ということでもあります(モーサヤ3:19)。

**心からの祈り。**十分な揚力を生むのに機体を正しい姿勢

に保つことが必要のように、わたしたちも正しい姿勢、つまり態度によって、義務的な祈りを繰り返すのではなく、天の御父と実り多い交わりを持てるようになります。そうすることによって、皆さんの祈りは御父に届くようになり、無意識に口をつく使い古した言葉の繰り返しではなく、天の御父と一致したいと切望する祈りになるはずです。

信仰によってささげられる祈りは、必ず神に受け入れられます。祈ることができなと感じるときには、なおさら祈る必要があります。ニーファイははっきりと教えています。「あなたがたは、祈るように人に教えてくださる御霊に耳を傾けるならば、祈らなければならないことが分かるであろう。悪霊は……祈ってはならないと人に教える。」(2ニーファイ32:8)

ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)は次のように教えました。「義人が心から祈りをささげれば、道が開かれ、神聖な知恵と力が授けられる。それは、その人が義にかなって求めたからである。」<sup>5</sup>

従順であれば祈りの答えが必ず与えられます。新約聖書には次のように書かれています。

「そして願ひ求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである。」(1ヨハネ3:22)

預言者ジョセフ・スミスは、1831年にカートランドで受けた啓示によって次のことを学びました。「御霊によって求める者は、神の御心みこころにかなって求めるのである。それゆえ、彼が求めるとおりに行われる。」(教義と聖約46:30)

皆さんは、神の霊の子として神との関係を深め、充実させ、はぐくむために、宇宙一賢明で思いやりのある御方と対話する特有の機会に恵まれているのです。

毎日、簡潔でも心のこもった力強い祈りをささげれば、より高い霊性をもって生活できるようになるでしょう。祈るときには、神をたたえ、神に感謝し、自分の弱さを告白して、必要なことを願ひ求め、天の御父に心を尽くして仕えたいという気持ちを伝えてください。贖い主イエス・キリストの名によってそうするならば、靈感と啓示と義(独善的な正義ではありません)が増し加えられ、天の輝きをもって生活できるよう。

旅客機の機長を務めていたころを思い出します。雨の降

# 航

空力学では、揚力に反して重力と抵抗力という力が働きます。

世の初めから、同じような重要な原則が救いの計画に不可欠な要素として存在しました。

る暗い滑走路から飛び立ち、危険な厚い冬雲を突き抜けて高度を上げていくと、突然明るい日の光とどこまでも続く青空が開けます。開放感とともに、来るべき場所に来たという思いで安堵したものです。しかし、毎日祈りをささげれば、それよりずっとすばらしい体験ができるのです。

**敵対するものと選択の自由。**一言訓戒を述べさせてください。航空力学では、揚力に反して重力と抵抗力という力が働きます。世の初めから、同じような重要な原則が救いの計画に不可欠な要素として存在しました。リーハイは次のように説明しました。「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。」(2ニーファイ2：11、強調付加) それは、天使がベニヤミン王に教えたとおりの「聖なる御霊の勧めに……従わないかぎり」「生まれながらの人は神の敵」だからです(モーサヤ3：19、強調付加)。

だからこそ、神はその子らに大なる賜物である選択の自由を与えられたのです。

リーハイは、何よりも重要なこの教義を自分の子供たちに次のように教えています。「主なる神は思いのままに行動することを人に許された。……そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あ

るいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」(2ニーファイ2：16, 27)

皆さんには選択の自由が与えられていますから、確かに自由に選ぶことができます。しかし、代価を伴わない選択の自由は存在しません。すべての選択の自由には代価が伴うのです。人は皆、自分の選択の結果に責任を負わなければなりません。

人の選択の自由は、キリストの苦しみという代価のおかげで人に与えられました。つまり、キリストの贖いの力が、心から悔い改めるといふ条件の下に、人の罪の結果を帳消しにしてくれるのです。救い主の普遍的で無限の贖罪によって、わたしたちは皆アダムの墮落から贖われて、永遠に思いのままに行動することを許されているのです(2ニーファイ2：26参照)。

選択の自由は霊にかかわる問題です。選択するには、どんな選択肢があるのか知らなければなりません。選択の自由は皆さんにとって非常に重要な問題です。皆さんには神に従うか背くか選ぶ自由があるだけでなく、選ぶ責任があります。

# 旅

客機の機長を務めていた

ころを思い出します。

雲を突き抜けて

飛んで行くと、

突然明るい日の光と

どこまでも続く青空が

開けます。

開放感とともに、

来るべき場所に来た

という思いで

安堵したものです。

しかし、

毎日祈りをささげれば、

それよりずっと

すばらしい体験が

できるのです。







# 飛

行機が  
飛ぶのに  
エンジン

出力が必要なように、  
皆さんには、  
すべてに及ぶ力の源が  
与えられています。  
それは、皆さんを高め、  
自らの創造された目的  
を果たすうえで  
助けとなります。  
それこそが  
神の力です。



この生涯において中立を保つことは不可能です。神からの光を受けるか、それとも拒むか、この選択を避けて通ることはできません。

選択の自由という賜物を使って正しい選択をすれば、霊的な揚力が高まり、より高い高度に達することができます。そして、記された神の言葉、すなわち聖文という、もう一つの霊的真理の源をすぐに知るようになります。

**御言葉をよく味わう。**天に向かって目を上げるには、まず積極的な態度を持たなければなりません。このように人生に対しても前向きな姿勢があれば、単に聖文や預言者の言葉を時々読むのではなく、「キリストの言葉」をよく味わいたいと思うようになるはずで(2ニーファイ31：20)。

よく味わうという言葉には、神の言葉を研究し、深く考え、求め、祈り、それに従って生きることが含まれます。あなた個人のために書かれたかのように、聖文を読んでみてください。なぜなら、確かにあなたのために書かれ

たものだからです。ニーファイはこう教えています。「見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2ニーファイ32：3)

新約聖書のヤコブの手紙第1章5節は、すべてのことが回復されるきっかけとなった力強い聖句です。神の言葉をよく味わう時間を取るよう勧めます。御言葉は週7日、1日24時間入手可能ですが、ファーストフードのように手軽に扱ってはいけません。イエスは群衆に向かい、御自身が語って聞かせた言葉を家に帰って深く考えるように言われました(3ニーファイ17：3参照)。このように深く考え、よく味わい、思い巡らせば、「どこに罪の赦しを求めればよいかを……知[る]」ことができるようになるでしょう(2ニーファイ25：26)。

祈り、神の言葉をよく味わうという、天を仰ぐ姿勢を示すこの二つのことを行えば、わたしたちは、さらに熱心に働き、喜んで奉仕し、人を励ましたいと思うようになります。そうすれば、思い上がることなく、教会の責任を尊んで大いなるものとするようになります。さらにこのような敬虔な態度があれば、何の責任に就くかよりも、いかによく奉仕するかを心にかけるようになるでしょう。ベニヤミン王はこう教えています。「わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということを悟らせるためである。」(モーサヤ2：17)「なえた手……を、まっすぐに」すれば(ヘブル12：12)、それができるようになります。

### 3. 神の力の真の源を見つけ、信頼する

ライト兄弟の飛行機が飛ぶにはエンジン出力が必要でした。それがなければ、揚力はもとより、飛行に必要な推進力が生まれないので、飛行機は誕生しなかったでしょう。

皆さんには、すべてに及ぶ力の真の源が与



えられています。それは、自らの創造された目的を果たすうえで助けとなります。それこそが神の力です。御自身の子供たちの生活に、愛に満ちた影響をさりげなく与えつつ、高めてくれる力です。神の力は、キリストの光、キリストの御霊、神の御霊、聖霊、そして聖霊の賜物という、様々な形を取ることがあります。

「慰め主 (Comforter)」という言葉は、「ともに強い」という意味のラテン語 “com fortis” から来ています。聖霊があなた自身の霊を訪れられるとき、あなたは一人だけのときより強められます。聖霊を受ければ、強さと力、そして平安と慰めが得られるからです。

預言者ジョセフ・スミスは次のように教えました。「聖霊と聖霊の賜物は別です。コルネリオはバプテスマを受ける前に聖霊を受けました。これは彼に福音の真理を確信させる神の力でした。しかし、コルネリオはバプテスマを受けるまで、聖霊の賜物を受けることはできませんでした。もし彼がこのしるしまたはこの儀式を受けなかったとしたら、神の真理を確信させた聖霊は彼から離れて行かれたことでしょう。神の秩序に従って、これらの儀式を受けてから<sup>あんしゅ</sup>按手によって聖霊の賜物を受けるまで、彼は病人を癒したり、人から悪霊を追い出したりすることはできませんでした。」<sup>6</sup>

十二使徒定員会のパーリー・P・プラット長老 (1807 - 1857年) は聖霊についてこのように述べています。聖霊は、「徳や親切、善行、思いやり、寛大さ、慈愛などを喚起する。人の美しさや外観、容貌を磨く。健康、活力、活気、社交性を高める。心身両面のあらゆる能力を活気づける。体力や精神力を強め、活力を与える。神経を強くし、活気づけ、正常に整える。要するに……骨に髄を、心に喜びを、目に光を、耳に音楽を、その人のすべてに命を吹き込むのである。」<sup>7</sup>

マリオン・G・ロムニー第一副管長 (1897 - 1988年) は次のような励ましの言葉を残しています。「聖なる御霊の導きに従えるようになれば、人生のすべてにおいて正しい決定を下すことができます。そのためには、自分を抑えて、御霊のささやきに思いを従わせなければなりません。問題についてよく考え、祈りの気持ちをもって結論を出してください。それから、その結論をもって、心を込めて率直に、次のように願い求めるのです。『父よ、わたしは正しい決定をし、正しいことをしたいと望んでいます。わたしはこうすべきだと考えていますが、はたしてこれが正しいかどうか教えてください』

い。』このようにすれば、もしその結論が正しいなら、心の内に燃えるものを感じるでしょう。……御霊とともに歩むようになると、決して間違いを犯さなくなります。』<sup>8</sup>

預言者ジョセフ・スミスは、聖霊のささやきを感じる時「急に様々な考えがわいてくる」と言いました。<sup>9</sup>

聖霊は皆さんの自立を助けてくださいます。常に聖霊を<sup>ほんりよ</sup>伴侶として生きることを学べば、必要なものがすべて整うようになります。義にかなっていれば、神の御霊があなたを導いて、自制心を養うのを助け、姿勢を正して霊性を増すことができるようにしてくれます。さらに、神の力の真の源を見つけて、それに頼れるように導いてくれるでしょう。

### 翼に吹く風

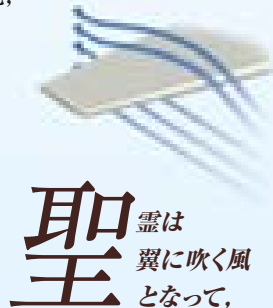
飛行機の操縦のたとえにもう一度戻ると、飛行機が飛ぶには、特に安全に飛ぶには様々なことが必要になります。その中で最も大切なのは、わたしが「翼に吹く風」と呼んでいたものです。それがなければ揚力は生まれません。上昇したり、青空を飛び回ったり、遠くの風光明媚な目的地に向かって飛んだりすることなど到底できません。

聖霊は皆さんの翼に吹く風となって、主イエス・キリストの神性を証し、永遠の父なる神の計画における主の役割を確信させてくださるでしょう。皆さんは、聖霊を通して、この計画の中で果たすべき自分自身の役割と、神が用意された永遠の行く末を知るようになります。そうすれば、主に帰依し、主の福音と、主の教会に心から改宗して、決して道を外れることはないでしょう。■

2003年11月11日に行われたブリガム・ヤング大学のディボーションにおける説教を基に編集。

#### 注

1. トム・D・クラウチ, *The Bishop's Boys: A Life of Wilbur and Orville Wright* (1989年), 166 参照
2. *The Notebooks of Leonardo da Vinci*, イルマ・A・リヒター編 (1980年), 261
3. 『救しの奇跡』, 235 参照
4. *Nicomachean Ethics*, W・D・ロス訳, 第3巻, 5章 (ウェブサイト <http://classics.mit.edu/Aristotle/nicomachaen.3.iii.html> 参照)
5. *Stand Ye in Holy Places* (1974年), 318
6. *History of the Church*, 第4巻, 555
7. *Key to the Science of Theology*, 第9版 (1965年), 101
8. Conference Report, 1961年10月, 60 - 61
9. *History of the Church*, 第3巻, 381



聖<sup>霊</sup>は  
翼に吹く風  
となって、  
主イエス・キリストの  
神性を確信させて  
くれます。

# 義人の歌

困難に直面したときに、  
賛美歌が心に安らぎと勇気をもた  
らしてくれたことについて、  
各地の会員から  
体験談が寄せられました。

## 荒れ野で信仰が築かれました

コンゴでは、1998年から1999年にかけて深刻な出来事が続きました。わたしは戦火を逃れるために村を出て、同じ村の人たちと7か月余りにわたって荒れ野をさまよいました。村に戻る手立てはありませんでした。

わたしたちは毎晩ともに祈り、歌いました。一人ずつ順番にその日に歌う賛美歌を提案しました。わたしの番が回って来たとき「主のみ言葉は」(『賛美歌』46番)を提案しました。わたし以外にだれもこの賛美歌を知りませんでした。わたしはこの賛美歌がわたしたちの不安に対して直接答えを与えてくれると感じたのです。

わたしはその7か月の間に「主のみ言葉は」を何度も歌いました。この賛美歌は、孤独や苦難の中でわたしを慰めてくれました。荒れ野で病気や飢えに苦しみ、厳しい生活を強いられていたのです。一人で歌いましたが、その歌詞とメロディーは皆の耳と心に響きました。「貧しくも、富める時も、病む時、健康の時も／内に外に、海、陸に／汝れの求むる時いつも 主の救いは汝れにあらん」。この歌詞のおかげで、もっと教会について知りたいという人が出てきました。

一緒にいた仲間の中に、国内のある教会で指導者をしている男性がいました。村に戻った後、この兄弟は福音についてもっと研究したいと言ってきました。わたしはモーサヤ書第18章のアルマの模範なまがらに倣って応じました(8-10節参照)。やがてこの兄弟は教会員になりました。

「主のみ言葉は」という賛美歌はわたしの心の琴線に触れ、荒れ野にいる間、大きな喜びと慰めを与えてくれました。また、この賛美歌が一人の兄弟を改宗に導いたことを思い出す



度に、今でも喜びに満たされます。

コンゴ共和国, シエリー・アレクシス・トコ

## 賛美歌が心を静めてくれました

聖なる賛美歌は、わたしが教会員になる前でさえ平安をもたらしてくれました。バプテスマを実際に受けるずっと前から、わたしは福音に帰依していました。両親からは、18歳になって法律上成人するまでバプテスマを待つようにと言われました。心配してくれる気持ちはありがたいと思いましたが、それはつらい時期でもありました。将来は、聖文を学び、

家庭の夕べを開き、互いに証を述べ合う末日聖徒の家庭を持ちたいと思いました。母親には、紅茶を飲まないことを嘲笑ちやうしやうする代わりに、若い女性の『成長するわたし』

について尋ねてほしいと思いました。父親にも、わたしが神の真実の教会に入りたいと心から願っていて、決して宗教に踊らされているのではないことを理解してほしいと思いました。批判を堪え忍ぶうちに、苦難はわたしの信仰を試すためにあるのだと理解できるようになりました。それでも、心は沈んだままでした。

わたしは落胆し、疲れ切っていました。そのような中でステーク大会に出席しました。それは18歳になるわずか43日前のことでした。席に着くと、会場を埋め尽くす人々の表情は皆友好的で、すぐに御霊みたまを感じました。わたしはそのとき、避け所を見つけたのです。靈感あふれる話の合間に、専任宣教師たちが「共に愛し合え」(『賛美歌』192番)を、初めは英語で、次に中国語で歌いました。英語の意味も分かりませんでしたし、歌っていた宣教師もだれ一人面識がありませんでしたが、深く感動しました。その賛美歌は、末日聖徒イエス・キリスト教会のことを表していると思いました。なぜなら教会員は互いに愛し合い、互いのことを気遣っているからです。教会にいますと、心が和みました。教会では、皆がわたしを愛し、支えてくれるのです。

わたしは今では教会員ですが、それでも同じような試練に遭うことがあります。でも、落ち込んだり、孤独を感じたりす

るときには賛美歌を歌います。すると、心が静まります。賛美歌は渴いた心に潤いを、飢えた魂に養いを与えてくれます。疲れたときには平安と前進する勇気をくれます。賛美歌は、神がわたしを御存じで、わたしを愛しておられることを、実感させてくれるのです。

ウェイウエンシユアン  
台湾, 魏奴軒

### 賛美歌に導かれてバプテスマを受けました

2000年10月28日、わたしは末日聖徒の集会所の裏にある家に引っ越しました。その日の夜、荷物を片付けていると、集会所の中で何か活動が行われているのに気づきました。夜にそれほど騒がしいのに慣れていなかったので、最初は腹が立ちま





した。すると、教会から一人の女性がやって来て、その夜の活動に誘ってくれました。わたしは別の教会に属していたので、その招きを断り、ほかの宗教とかかわりたくないと言いました。活動の途中で、教会員が賛美歌を歌っているのが聞こえてきました。とても美しい音楽だと思いました。

日曜日、わたしは朝早く起きて自分の教会へ行きましたが、帰宅した後も末日聖徒の集会所に大勢の人がいるのが見え、再び賛美歌が聞こえました。音楽はとても美しく、心の奥に何かを感じました。午後にもまた集会所に人が集まりました。わたしは今度はテレビを消して、音楽に耳を傾けました。

会員たちが歌っている間、わたしは窓際に立っていました。何か特別なものを感じ、深い安らぎが心に満ちました。庭に出て、もっと彼らを近くに感じたいと思いました。感情が高ぶり、涙が流れてきました。

わたしは娘を連れて外に出ました。一人の男性が教会から出て来て、わたしを見ると、バプテスマ会に出席しないかと誘ってきました。初めは断りましたが、中に入った方がよいと感じました。娘も呼びましたが、来ようとしません。それでも、中に入るべきだという気持ちに抗することはできませんでした。やがて娘も来て、二人でバプテスマ会に出席しました。わたしは感動し、御霊が心に触れるのを感じました。2000年12月10日、娘とわたしはバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。

賛美歌はわたしの人生を変えました。わたしは深い悲しみを抱いていましたが、今は幸福です。主をほめたたえ、主に愛を表す賛美歌に感謝しています。賛美歌はわたしをバプテスマに導いてくれたのです。

ブラジル、カルメリンダ・ペレイラ・ダ・シルバ

## 神の子供

当時わたしは韓国のソウルで宣教師をしていて、新しい地域に転任したばかりでした。数百万の人口を有する大都市の雑踏にまだ圧倒され、韓国語も流暢と呼ぶには程遠いものでしたが、自分は主が望んでおられる場所にいると実感していました。

ある日、同僚とわたしは何年もの間教会に出席していない会員に会う機会を得ました。彼女は最近父親を亡くしたばかりで、霊的にも情緒的にも慰めをとっても必要としていました。わたしたちは彼女の家を訪ねて話を聞きましたが、わたしは

会話のほとんどが理解できませんでした。

ある夜中の3時ごろ、アパートの電話が鳴りました。電話に出たとき、初めは相手の女性が何と言おうとしているのかわかりませんでした。女性はいらいらしていましたが、わたしはどのように助けたらよいか、また何を言えばよいか、見当が付きませんでした。

心の中で祈り始めました。祈りながら女性の声に聞き覚えがあることに気づき、最近会った、あのあまり教会に来ていない姉妹であることがわかりました。彼女の言葉は完全には理解できませんでした。彼女が孤独で、愛されていると知る必要があるのだと感じました。しかし、どのような言葉をかければよいのでしょうか。英語でさえ適切な言葉が見つからないのに、ましてや韓国語でなんて無理です。

突然、賛美歌「神の子です」(『賛美歌』189番)の歌詞を韓国語で暗記したことを思い出しました。姉妹の話が途切れたとき、この賛美歌と一緒に歌ってもよいか、わたしはゆっくりと尋ねました。彼女は承諾してくれました。二人で歌っているうちに、えも言われぬ平安と慰めを感じました。まるで天の御父が二人を抱き締め、いつも愛してくださっていること、そしてわたしたちが御父を必要とするときにはいつもそばにいてくださることを思い出させてくださっているかのようでした。

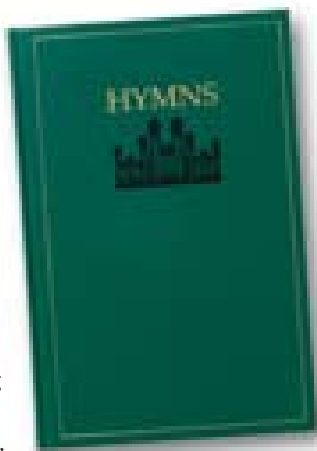
賛美歌を歌い終わると、姉妹はもう大丈夫だと言い、わたしたちは「お休みなさい」と言って電話を切りました。わたしは自分の心に残っている御霊の余韻に驚嘆しながら寝室に戻りました。神の子供が暗い夜に助けを求めるとき、御父がいつもそこにいて、返事をしてくださることを知って、心から感謝しました。

アメリカ合衆国ユタ州、ダイアンサ・スミス

## 苦難のさなかに平安を得ました

わたしの家族は、1977年に教会に入りました。当時わたしは11歳でした。そのころ、母国エルサルバドルでは激しい内紛が始まっていました。政治情勢は深刻でした。軍と反政府組織の間では頻繁に武力衝突がありました。政府は全国民に、午後6時以降の夜間外出禁止令を出しました。集会を開く自由も、言論の自由もなく、わたしたちは軍隊と反政府組織の両方に脅かされていると感じていました。

これら一連の出来事によって、人々はどこでもいいから移住したいと望み、その方法を探しました。わたしの家族も例外ではありませんでした。父は家族を危険から救い出すこと





を期待して、ベネズエラでの働き先を見つけました。しばらくの間、母が家長として残りました。

内紛は教会にとっても、つらい時期でした。父がベネズエラに行くために乗った飛行機には、エルサルバドルを脱出する最後の15人の宣教師も乗っていました。これは、その後長きにわたって、イエス・キリストの福音を宣べ伝える使者を迎える機会を失うことを意味していました。

1979年の暮れ、わたしたち家族や教会のほかの会員たち、とりわけ青少年が、独自で伝道活動を始めました。小人数の聖歌隊を組織して、人々に希望を与えるために道端で歌いました。これによって福音を学びたいという多くの人を見つけました。

同時に、危険の中で生活する方法を学びました。戦闘や爆撃が起きると、すばやく床の上に伏せて、危険がすぐに過ぎ去ることを願いました。母はわたしたちを守るために上からマットレスで覆ってくれました。そのようなつらいときに安

らぎを与えてくれたのは、賛美歌です。わたしたちは床に伏せながら賛美歌集を手に持ち、母の勧めに従って「恐れず来たれ、聖徒」(『賛美歌』17番)、「主のみ言葉は」(46番)、「麗しき朝よ」(18番)、「山の上に」(2番)、「高きに栄えて」(180番)、「主イエスの愛に」(109番)、そのほかにも、逆境の中で慰めを与えてくれる多くの賛美歌を歌いました。わたしたちは精神的重圧からよく泣きましたが、賛美歌を歌うことでその恐ろしい状況に立ち向かう勇気を得ました。

やがて、父はわたしたちをベネズエラに呼び寄せ、そこで一緒に新しい生活を始めました。わたしたちは家族がともに生きていられたことを天の御父に感謝しました。この経験を通して、わたしは賛美歌が困難なときに平安を招いてくれることを学びました。■

ベネズエラ、アナ・グロリア・エルナンデス・デ・アブズエラ



# 支え合う仲間



あなたがいないと  
崩れてしまう。  
(教義と聖約84:110参照)

## 家族を強める



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

**扶助協会に所属する祝福**——扶助協会では、思慮深く生活し、賢明に家庭を管理し、神殿と家族歴史の業を行うことを通して、姉妹たち一人一人が自分の受け継ぎを尊ぶように勧められています。

**中央扶助協会会長 ポニー・D・パーキン**——「扶助協会の一員になることにより、わたしは、より良い妻、母親、そして神の娘となるために更新され、強められ、決意を深めてきました。心は福音への理解で満たされ、救い主と救い主がわたしのためにくださったことへの愛で満たされてきました。ですから姉妹の皆さん、扶助協会に集ってください。扶助協会は皆さんの家庭を愛と慈愛で満たし、皆さんと家族を養い、強めることでしょう。」（「扶助協会は、皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか」『リアホナ』2004年11月号、35）

**賢明に家庭を管理すると、家族はどのように強められるのでしょうか。**

**教義と聖約 93 : 43, 50**——「自分自身の家を整えなければならない。

……〔あなたは〕家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わ……る必要がある。」

**欽定訳箴言 31 : 10, 13, 25, 27 から和訳**——「だれが賢い妻を見つめることができるか、彼女は宝石よりもすぐれて尊い。……

彼女は……自らの手を使って進んで働く。

力と気品とは彼女の着物である、そして後の日を喜んでいる。

彼女は家の事をよくかえりみ〔る。〕」

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレー**——「皆さんに強く申し上げたいのは、支出を抑えることであり、購買欲を抑えて、借り入れをできるだけ避けるといことです。負債はできるだけ早く返済して束縛から逃れてください。

……借金を返済し、少しでも貯金をすれば、嵐が襲っても……家があり、心には平安が訪れます。」（「若い兄弟たちに、そして成人の兄弟たちに」『リアホナ』1999年1月号、62参照）

**神殿と家族歴史の業を行うと、家族はどのように強められるのでしょうか。**

**大管長 エズラ・タフト・ベンソン (1899 - 1994年)**——「神殿は、家族を永遠のものとして組織された神の意図をいつも思い起こさせてくれます。……神殿に行ってください。そうすれば神権の至高の祝福にあずかる権利が授けられるでしょう。……

……神殿に参入し、主の宮に関する儀式を執り行うとき、皆さんは数々の祝福を授かることでしょう。

エリヤの霊を受け、自分の心が伴侶<sup>ほんりよ</sup>、子供、先祖に向くようになります。

今までにないほど深い愛で家族を愛するようになります。」（「神殿について子供たちに教える」『聖徒の道』1986年4月号、2, 6参照）

**大管長 ハワード・W・ハンター (1907 - 1995年)**——「状況が許すかぎり頻繁に神殿に参入しましょう。子供たちに見えるように、家に神殿の写真飾りましょう。主の宮の目的について子供に教えましょう。幼いうちから神殿に参入することを計画させてください。

……家族の歴史を集め、神殿でしか行えない神聖な儀式のために名前を提出しましょう。家族歴史の探求は神殿の業に不可欠のものであり、その業に携わる人々には必ず祝福が注がれます。」（「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号、10参照）■

# どなられ、 ほえられ、 雨に降られ

友人は皆、伝道はすばらしいと言っていたのに、  
なぜわたしはあんなに惨めだったのでしょうか。

カタリーナ・ベツェ・バーヒ

「こんなにつらいということを、  
どうして教えてくれなかったの  
ですか。」わたしは、宣教師訓練センターの講  
師のニューマン長老に、そう書き送りました。今から20年前、  
伝道地に赴いたばかりのわたしは、伝道がとてもつらく、嫌  
になっていました。「中途半端で投げ出したいくないので最後  
まで頑張りますが、人生で最高の18か月だったなんて、人には  
絶対に言いませんからね。」

ニューマン長老の返事はこのようなものでした。「ベツェ  
姉妹、そのように感じていることを残念に思います。実のところ、  
ブラッドフォード長老とわたしは、あなたに伝えようとし  
ました。あなたたち全員に、です。わたしたちはいつもそう  
していますが、だれも信じようとしませんのです。でも、心配  
しないでください。伝道は楽しくなります。帰還するころに  
は、伝道に出てよかったと思うようになるでしょう。」

わたしは伝道を何とかして楽しもうと決めました。結局の  
ところ、わたしが伝道に出ることは天の御父の御心だと確信  
していましたが、伝道を決意して主に祈ったときに感じた御  
霊を否定することはできませんでした。友人の多くはすでに  
伝道を終えているか、出ている最中で、皆、福音に関する深  
い理解や、わたしには欠けている洞察を得ているように思え  
ました。伝道に出た友人が一人残らず、いきいきと語ってく  
れたのは、福音によって生活が変わった人の話や、毎日のよ

うに目にした奇跡についてでした。皆、口  
をそろえて、伝道に出たことは人生で最高の経験  
だったと語りました。彼らの経験を聞いて、わたしも伝道に  
出る決心をしました。

しかし、ドイツ北部に到着したわたしを迎えたのは、時差  
ぼけと、わたしと同じくらい経験の浅い先輩、そして6月の肌  
寒い気候でした。1日に少なくとも2回は雨に降られ、まるで  
大きな水たまりから引き上げられたかのように、ずぶぬれに  
なりました。自転車での移動も苦悩の一因でした。わたした  
ちはドイツ北部の数少ない丘の上に住んでいましたが、求道  
者はほぼ全員、別の丘の頂上に住んでいました。しかし、何  
より落胆したのは、御霊の繊細な影響力を識別できる自信が  
ないことでした。宣教師として失敗する運命なのではないか  
と不安になりました。ドイツに来てまだ2か月もたっていない  
というのに、そんな有様でした。

ところが、信じられないことに、ニューマン長老の言葉が  
正しかったことが分かり始めました。確かに伝道が楽しく  
なってきたのです。状況は何一つ変わりません。でも良い出  
来事に気づき、それを楽しめるようになったのです。

例えば、2回目のゾーン大会の帰りにこんな経験をしました。  
わたしたちは列車を乗り換えて、ある女性に、フライバルクの  
新しい神殿について、夢中で話していました。すると突然、列  
車が帰りに通らないはずの町に停車しました。乗る列車が





違っていたことに気づき、同僚とわたしは慌てて下車しました。不運なことに、帰りの列車は2時間待たなければならず、その後の接続も悪く、そこでも待たなければならぬことが分かりました。わたしは駅で待ちながら読書をしました。受け取ったばかりの『エンサイン』(Ensign)には、当時ブリガム・ヤング大学の学長だったジェフリー・R・ホランド長老による記事、「メシヤへの道」が掲載されていました。ホランド長老の言葉はわたしに直接向けられているかのようでした。

「御霊の導きを受けるには、忍耐強く待たなければならぬということをお忘れください。皆さんとわたしの生活はだいぶ違うところもあるでしょうが、共通した部分もあると思います。……わたしにとって伝道生活は決して楽ではありませんでした。……

……預言者などごく少数の例を除いて、わたしたちは皆派手な行為とはまったく無縁の方法で、こつこつと神の業を進めていかなければならないのです。神を知るために、また神が自分を心にかけておられることを知るために努力し、時間をささげ、苦しいながらも謙遜に地道な奉仕を続けていくなれば、『神はあなたのために御使たちにお命じに〔なり〕、彼らはあなたを手でささえるであろう』ということに気づく日が必ず来ます(マタイ4:6)。すぐには来ないかもしれませんが、恐らくすぐには来ないでしょう。しかし、それを待つ時間にも大切な意味があるのです。霊的な面での義務と苦闘を貴い大切なものと考えてください。神はそれを通して皆さんと語られるのです。皆さんがそれをよく受け入れるなら、神は御自身の業を進めるために皆さんを用いられることでしょう。』(『聖徒の道』1989年3月号、23参照)

伝道地での様々な経験のおかげで、この言葉の意味がよく理解できました。人里離れたうら寂しい駅で、ホランド長老の言葉が真実であるという御霊の証を得たのです。それは力強く、心を貫き、慰めを与えるものでした。

ある夜遅く、ガブラー姉妹とわたしは大きなアパートを戸別訪問していました。一人の老婦人が部屋に入るように勧めてくれたので、少し驚きましたが、同僚もわたしも彼女が悲しみを抱えていることを察知しました。薄暗い部屋に座り、老婦人は夫の死や継子から拒絶されたことについて語ってくれました。彼女には天の御父の愛がぜひとも必要であることが分かりました。わたしは彼女の聖書を借りて、次の美しい言葉を読んであげました。「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:29-30) その部屋は御霊に包まれ、3人とも涙を流しました。同僚とわたしは老婦人に、



天の御父が彼女の悲しみを御存じであり、彼女を愛しておられることを証しました。その短い、貴重な時間に少なくとも一人が主に帰依しました。その一人とは、わたしです。

だんだんと、自分の態度が変わっているのに気づきました。どなられ、ほえられ、雨に降られ、約束をすっぽかさされ、無視される日々は変わりませんでした。ショルダーバッグはどんどん重くなり、日に日に洋服が擦り切れていき、数千人に手を差し伸べる責任の大きさに圧倒されることもありましたが、しかし、不親切な言葉にもあまり心が痛まなくなり、体の痛みもどんどん和らぎ、証が強くなるに従って、生活もどんどん明るくなっていきました。自分の中で変化が生じているのに気づきましたし、福音を教えている人々にも同様な変化が生じているのを目にしました。

ウーベという名の、若い、理想主義の環境保護論者がいました。彼は救いの計画について聞いて、そのメッセージが真実であると確信しました。革ズボンをはいた長い足が教会の座席にうまく収まらなくても、彼はわたしたちの招きにこたえて、日曜日の朝、5マイル(約8キロ)の道のりを自転車であってくれました。ウーベが初めてひざまずいて祈ったとき、わたしたちも彼の心に平安が宿るのを感じ、彼の表情が変わるのが見て取れました。

ある医師とその妻は、わたしたちが教える事柄にことごとく反論しようとしていましたが、どういうわけか、反論できないことを心の奥で悟ったようでした。そのときは、イエス・キリストの回復された福音を受け入れませんでした。子供たちが日曜の集会やそのほかの活動のためにグリユックシュタット支部に行くことは喜んで認めていました。

ある日、新しい同僚のニューマン姉妹と一緒に、かわいらしい若い女性を教えていると、彼女のボーイフレンドのトムが彼女に会いに来ました。彼女が事前に教えてくれたのですが、トムは彼女にこれ以上宣教師と会わないようにと言っていたのです。トムはわたしたちの自転車があるのを見て、その朝、宣教師が訪ねて来ていたことを知り、わたしたちが帰るまで外で待つことにしました。しかし、待っているうちに好奇心がわいてきて、聞いてみたいことが次々と浮かんできました。ついに、知りたい気持ちが疑う気持ちに打ち勝ち、宣教師がどう答えるか試してやろうと、家に入って来ました。わたしたちは福音の基本原則を簡潔に説明し、背教と回復の概要を紹介した後で、翌日の晩にトムに教える約束をしました。トムは10週間後にバプテスマを受けました。わたしは、伝道期間

をあと10年延ばせるものなら延ばしたいと思うくらい、喜びで胸がいっぱいになりました。

アストリットとジェニファーという姉と妹は、宣教師から見つけられる前に教会を見つけました。ジェニファーは、学校の宗教の授業で教会について聞き、興味を持って調べていました。彼女は地元の図書館でモルモン書とウィリアム・E・ベレット著の『回復された教会』(The Restored Church)のドイツ語訳を見つけ、アストリットと一緒に2冊とも読みました。二人はブレーメンの電話帳を開き、この「アメリカの」教会が載っていないか調べてみました。自分の町に集会所があることを知り、二人は驚き、また喜びました。アストリットとジェニファーは、回復されたイエス・キリストの教会に加わる方法を教えてほしいという手紙を、集会所あてに出しました。もちろん、わたしたちは喜んで手伝いました。

エーラー家族、カルドベア家族、シリスコ夫人、ランゲ氏、トット氏、そのほか数千の人々が、ほんの数分、あるいはもう少し長く、立ち止まって、話をしたり、聞いたりしてくれました。そのおかげで、わたしたちは証を述べ、福音の種をまくことができました。まいた種が実を結ぶのをこの世で目にすることは、ほとんどないでしょうが、クラッセン家族はわたしが転任した後にバプテスマを受けましたし、マーンケ夫人はわたしが宣教師を解任されてからずっと後に証を得て、教会員になりました。

ニューマン長老は正しかったのです。ドイツを離れるころには、わたしの心は大きく広がり、まったく

新しい世界を受け入れるようになったのです。わたしが出会った人々、考え、伝統、習慣、そして何よりも、霊的な感動は、わたしの心に永遠に刻み込まれました。見知らぬ人だと思っていた人々を愛し、彼らに与え、彼らのために苦しみを甘んじて受けることを学んだのです。

帰還したわたしは、宣教師訓練センターで宣教師を教えました。わたしは宣教師たちに、伝道は偉大な祝福が待っている一方、時にはつらいものだということを伝えようと思いました。宣教師たちはあまりよく理解しませんでした。実のところ、わたしも彼らが理解できるとは期待しませんでした。——伝道地に赴くまでは無理でしょうから。■

**「霊的な面での義務と苦闘を貴い大切なものと考えてください。神はそれを通して皆さんと語られるのです。」**  
**人里離れたうら寂しい駅でわたしがこの言葉を読んだとき、それが真理であることを**  
みたま あかし  
**御霊が証しました。**





# 生まれながらの人 を捨てる



## 末日聖徒イエス・キリスト教会特有の教義を 検証するシリーズ

**人**間の本性については、哲学者や神学者が何世紀にもわたって議論を交わしてきました。長い間、哲学者の間には大きく分けて3つの立場がありました。人間の本性は基本的には善である、人間は本来悪である、あるいはその中間(後で書き込んでいく白紙のような状態)です。回復されたイエス・キリストの福音によって人の真の性質が明らかになり、そのおかげで「生まれながらの人」を捨てるという人生の課題に(モーサヤ3：19)、目的と意味と方向性が与えられたことに、わたしたちは感謝しなければなりません。

### 二つの性質

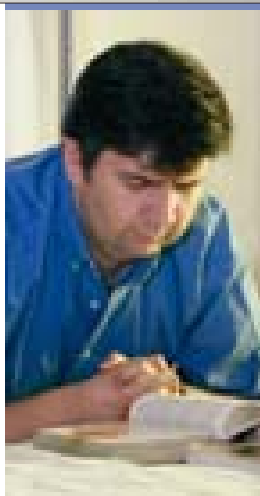
アダムとエバが墮落したために、「全人類は迷い墮落した

民と」なりました(アルマ12：22)。墮落した人つまり「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒とな[ら]ないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう」とベニヤミン王は教えています(モーサヤ3：19)。

デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は、墮落があったために、わたしたちには二つの性質があると教えています。「一方は地上の存在あるいは地上に置かれた動物としての性質であり、もう一方は神との関係に関連する性質です。人がいわゆる動物界にとどまり、動物界がもたらすものだけで満足し、努力せずに欲望と激情の赴くままに放縱の域の深みに身を落としていくか、あるいは逆に、自制を通して、知的、道德的、靈的な喜びを求めて自分自身を高めるかは、人生で本人が行う毎日の、いえ、時々刻々の選択に懸かっているのです。」<sup>1</sup>

わたしたちの霊は神のもとから来ており、「人の霊は皆、初め





に罪がなかった」のです(教義と聖約93:38)。肉体も神から与えられた賜物です。わたしたちがこの地上に来ることを望んだ一つの理由は、天の御父のようになるためでした。天の御父には肉体があります。したがって、死すべき状態にあるわたしたちの課題の一つは、自分の肉体に気を配り、また、正しく管理して用いる方法を学ぶことです。肉体が持つ生まれながらの性癖を治めることができれば、わたしたちはマッケイ大管長が述べたような霊的な人生に向けて成長していくのです。しかし、「生まれながらの人」に治められるなら、神と神の目的に敵対することになるのです(モーサヤ3:19参照)。

## 闘い

十二使徒定員会のメルビン・J・バラード長老(1873-1939年)は次のように教えています。「わたしたちの魂の敵がわたしたちを捕らえようとして行うすべての攻撃は、どれも肉を通してきます。なぜならば、肉はまだ聖められていない地から作られており、悪魔は地の元素を制する力を持っているからです。悪魔がわたしたちに接近する方法は情欲や欲望、肉の野望を通じてです。この闘いでわたしたちに差し伸べられる主からの援助はすべて、肉体の内に宿る霊を通じて与えられます。このように、これら二大勢力はこの二つの経路を通じて、わたしたちに働きかけているのです。

……もしあなたが体を支配する強い霊を持ちたければ、霊の食物を取り、霊の運動をするように気をつけることです。……

男であれ女であれ、霊のために食物も取らず運動もしていない人は、やがては霊的に弱まり、肉がその主人となるでしょう。したがって、霊の食物を取り、さらに霊の運動をしている人ならば、だれでもこの体を制御し、常に神の御心に従わせることでしょ。<sup>2</sup>

バラード長老は霊の食べ物と運動の形を挙げています。それは祈りをささげ、聖餐を取り、互いに奉仕することです。このほかにも、聖文や預言者の言葉から分かるものとして、安息日の集会への出席や神殿での奉仕、聖文の研究などがあります。

## 性質を変える

霊の食物を取り、霊の運動をすると、強められて、肉体を治めるという目標を達成しやすくなります。そして、墮落した「生まれながらの」状態から肉体が聖められるなら、肉体を治めるための努力も、もっと容易になります(モロナイ10:32-33参照)。この聖めは、キリストの恵みと聖霊の働きを通して与えられます。十二使徒定員会のパーリー・P・ブラット長老(1807-1857年)は、次のように教えています。「聖霊の賜物は……知的能力をすべて活気づけ、さらには人間の本性である熱情と愛を増し、広げ、清くし、知恵の賜物によって律法にかなった用い方ができるように変えていくのである。<sup>3</sup> 情熱は、本来悪いものではありません。義にかなった人々の心に宿る情熱は、大いなる善を生み出す原動力ともなるのです。

したがって、自分の弱さと肉体の欲望に屈する必要はありません。これが福音の教えです。福音のよきおとずれとは、選択の自由を正しく使うなら、救い主の贖いのおかげで、人の性質は根本から変えられるということです。エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は、世は「人間の行動を変えようとしますが、キリストは人の性質を変える」<sup>4</sup> ことができると教えています。確かにペテロが言っているように、主の力によってわたしたちは「世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者とな[れ]る」のです(2ペテロ1:3-4参照)。キリストの贖罪を通してわたしたちは生まれながらの人を捨てて聖徒となり、「従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者」となれるのです(モーサヤ3:19)。■

## 注

1. *Gospel Ideals* (1953年), 347-348
2. 「魂の闘い」『聖徒の道』1984年9月号, 36-37参照
3. *Key to the Science of Theology*, 第9版(1965年), 101
4. 「神によって生まれる」『聖徒の道』1986年1月号, 6

**体**を制御し、常に神の御心に従わせるには、**霊の食物と運動が必要**です。

# カンボジア

## 平和への道をたどる国



1994年、カンボジアは福音を<sup>の</sup>宣べ伝える  
宣教師に門戸を開きました。

現在この国の宣教師は、6,000人を超える  
会員たちの厚い支援を受けています。

マリッサ・A・ウィディソン

教会機関誌

**カ**ンボジア政府が1994年に教会を正式に認可してからというもの、信仰と勇気、改宗の物語は、この国の開拓者の受け継ぎの一部となっています。アジアにあるこの熱帯の国では、聖徒と宣教師が肩を並べて働き、人々の生活は毎日変わっていています。

ドナルド・ドブソン長老、シャーリーン・ドブソン姉妹は夫婦宣教師としてインドで奉仕していましたが、1994年、カンボジア初の宣教師として働くためにこの地に転任になりました。同年3月27日、カンボジアで初めて、教会の集会在ホテ

ルで開かれます。この集会には、会員が6人と福音を学んでいる人が9人出席しました。1994年5月9日には、パル・マオ姉妹がカンボジアで最初にバプテスマを受けて会員になりました。その2年後の1996年5月、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がカンボジアを訪れ、福音を宣べ伝えるためにこの国を奉獻します。この奉獻は眼下にメコン川を見下ろす丘の上で行われました。御業が正式に始められたのです。

### 援助の手を差し伸べる——人道支援

1993年、ラリー・R・ホワイトは、タイのバンコク伝道部で部長として奉仕していたときに、カンボジアでの宗教情勢が好転しているという報告を聞きました。そこでホワイト部長は、七十人のジョン・K・カーマック長老とバンコク在住のビチット・イト兄弟とともにカンボジアへ赴き、政府の代表者に、伝道活動と人道支援活動を始められるかどうか尋ねました。その結果、人道支援活動を開始することが許可されました。

それ以後、カンボジアでは多くの人道奉仕宣教師が奉仕してきました。最近では夫婦宣教師のロバート・スコールズ長



老、バージニア・スコールズ姉妹が、末日聖徒慈善事業団の国別ディレクターとして奉仕しました。この事業団は教会が資金を提供する人道支援組織であり、しばしば地元の政府や民間団体と手を組んで、世界中の国々で生活が苦しい人々の救済に当たっています。慈善奉仕には障害を乗り越え、政治的見解の相違を克服し、教会の信用を高める力があることを二人は理解しています。

カンボジアでは、毎年500人以上の罪のない市民が埋設地雷で手や足を失い、重傷を負い、命を落としています。この事実を知ったスコールズ長老夫妻は、地雷の犠牲者を援助するために何かを行おうと決心し、車いす財団およびカンボジア赤十字社と協力して、「トリプルコンビネーション」と名付けられた事業を開始しました。この事業は、地雷による多くの犠牲者やその他の理由で身体に障害を持つ人々に新しい車いすを贈るものです。



### 家族歴史——同じ価値観の下で

先祖を祭るしきたりのあるカンボジア文化の中では、教会の系図探求の業が人々の興味を引くことに何の不思議もありません。夫婦宣教師であるマイケル・フレーム長老とドナ・フレーム姉妹は、カンボジアの首都プノンペンで家族歴史セミナーを催し、そこで教師を務めました。このように末日聖徒慈善事業団が主催し人道奉仕宣教師が教えるセミナーには、この2、3年で数百人に上る男女が出席しています。

フレーム姉妹は言います。「カンボジアでボル・ポト時代を生き延びた人はたくさんいます。当時、膨大な記録が失われました。子供たちや孫たちが読めるよう、家族の歴史を書き留めるのを手伝いたいと思っています。系図の作成がどれだけ簡単かを見てもらいたいのです。」

**左ページ——メコン川にかかる橋を渡って通勤する人々。  
健康の大切さを人形劇で教える末日聖徒たち。  
プノンペン市街を走る輪タク。  
プノンペンにある末日聖徒の教会堂。  
上——バプテスマのために集った家族と宣教師。  
メコン川に浮かぶボート。**

同様に、カンボジアの文化や歴史に関する写真やイラストは、すべて著作権フリーのものを使用しています。© CORBIS IMAGES. 米国・ニューヨーク・シティ・タイムズスクエア・ビルディング内にて撮影。

関心のある人々がプノンベンのあるところからやって来て家族歴史クラスに出席し、家族歴史の記録や両親と祖母への聞き取り、先祖に関する重要で興味深い情報の収集について学んできました。多くの人は長年にわたって不安定な政治情勢を目の当たりにしてきているため、家族に関する現在の情報を後世に伝えたいと望むのももっともです。

下(左から)——  
ソダリス・セアン姉妹と  
レーチェル・ベース姉妹、  
エン・ブン・フオチ兄弟、  
チー・サム・ナン姉妹。  
プノンベン市内で  
火事の後始末を手伝う  
姉妹宣教師たち。



### カンボジアにおける伝道活動

人道奉仕宣教師や福音を伝える長老、姉妹の努力のおかげで、何千人ものカンボジア人が福音を受け入れています。

カンボジア・プノンベン伝道部でのことです。アリゾナ州メサから来たトレント・ニールソン長老は、準備の日(訳注——週に1度の、アパートの掃除やレクリエーション、手紙を書くなど、伝道の準備をする日)に仲間の宣教師たちがサッカーの試合を始めるのを見ていました。サッカー場は、たまたま学校の隣にあり、10代の子供たちは宣教師たちがサッカーに興じる姿に興味を引かれました。何人かがニールソン長老のところに来て尋ねました。「どうしてカンボジアでこんなにたくさんアメリカ人がサッカーをしているのですか。」自分たちは全員宣教師で、イエス・キリストの福音を教えているのだと、ニールソン長老は説明しました。すると、どのくらいの報酬で教えているのか知りたがります。そして宣教師たちが自費で働いていることを知ると、少年たちは物が言えないほど驚いてしまいました。一体そんなことをだれがするのでしょうか。

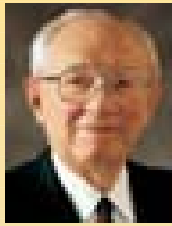
興味津々の少年たちの口から霊的な事柄に関する質問が出てくるまでには、さほど時間はかかりませんでした。こうして、少年たちは宣教師が携えているメッセージに引き込まれていったのです。間もなく、ニールソン長老は、サッカー場の芝生の上で10人の少年たちに福音の回復について教えていました。

その中で最初だれよりも反対の立場をとっていた少年は、最後にはいちばん興味を示すようになり、この少年を含む何人かがモルモン書を欲しがりました。ニールソン長老は、興味を持った少年全員に渡るだけの数のモルモン書が手もとにないことに気づき、慌ててサッカー場にあった宣教師のバッグを片端から調べて、十分な数のモルモン書をそろえました。別れ際にニールソン長老は、教会についてさらに知るにはどうすればよいかこの少年たちに伝えました。

### 姉妹宣教師と地元の会員

プノンベンで初めての姉妹宣教師の到着は、地元で御業が大きく発展する兆しとして大歓迎されました。2003年8月21日、ミーガン・ジョーンズ姉妹、クリステン・ドーニング姉妹、





## 信仰をもって働く

「北アメリカに住む  
会員よりもそれ以外  
の地に住む会員の  
方が多くなるまでに、  
教会は発展してきま

した。わたしたちは、会員が160か国  
の至る所にいる、立派な国際家族にな  
りました。……

将来へのわたしたちの希望は大き  
く、信仰は強固です。……

10年前の言葉を繰り返しましょう。  
『もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、  
精神を集中して、福千年における末日  
聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命  
に対する知識と理解を深め』ましょう。』

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「開会に当たり」

「リアホナ」2005年5月号、4-6

レーチェル・ペース姉妹が首都プノンペンに到着しました。姉妹宣教師たちは、初日の伝道を、セントラルマーケットで行いました。ここはプノンペンでいちばんにぎやかな市場で、だれでも入れます。到着したばかりの姉妹宣教師たちは多少緊張していました。一方、姉妹たちの同僚はカンボジア人初の姉妹宣教師で、ソクホム・スオン姉妹とモリス・スオン姉妹、ソダリス・セアン姉妹といい、慣れた地域での伝道をのびのびと行っていました。

土地の事情に詳しいということは、地元から出た宣教師が重宝される理由のほんの一部でしかありません。自国で伝道する宣教師は母国で奉仕できる機会を大切に、その熱意によって行く先々で人々を活気づけます。

1998年10月25日にバプテスマを受け、その2年後にプノンペンで伝道したエン・ブン・フオチ兄弟はこう語っています。「わたしが伝道を愛していたことを、すべての教会員に伝えたいと思います。伝道活動は容易ではありませんが、行う価値があります。わたしの人生で伝道がいかに重要で有益だったかは言葉では表現できません。2年間の伝道のおかげで指導力や教授法が身に付きましたし、どうしたら良い友人、良い息子、良い会員になれるかが分かりました。」

フオチ長老は2002年7月17日に帰還し、その後見つけた仕事のおかげで、生活は向上しました。証が<sup>あかし</sup>強まり、人生の荒波を乗り越える備えは以前よりもできていると感じています。

「まだわたしが若くて伝道に出られる年齢の間に、カンボジアに福音がもたらされたことを主に感謝しています。このすばらしい業に携わる機会を逸していたら、どんなに悲しかったでしょう」とフオチ兄弟は言っています。

姉妹宣教師や長老、また自国で働く宣教師や外国から来た宣教師。宣教師のおかげで御業は日々進展しています。

## 神権の力に祝福されて

神権の力は、福音の中で成長できるよう、カンボジアの新興会員の生活を支える力となっています。サム・ナンをはじめ、

多くの人々が医学上の奇跡を体験し、常に信仰が強められています。

ある日、サムが朝早くバイクの後ろに乗って職場に向かっていると、突進してきた大型トラックにはねられて、舗道に激しくたたきつけられました。身元が分からなかったため、だれもサムを病院に運ぼうとはしませんでした。意識がもうろうとしていたので、サムは集まって来た人たちの質問に答えることができなかったのです。手当ても受けられないまま、約2時間道路に横たわっていました。

病院では、診察した医師から、右足の骨が「粉々に砕けている」と言われました。医師は即座に、ひざの上から足を切断するか、せいぜい骨をピンで接合してみるくらいしか方法はないと言います。家族はひどく動揺して、ウン・ソン支部長と夫婦宣教師のラボン・デイ長老とマリアンヌ・デイ姉妹に電話しました。彼らは、自分たちが着くまで処置を待つようと医師に伝えました。

ソン支部長とデイ長老は病院に着くと、サムを祝福しました。医師は当初の主張を取り下げて、手術を少し遅らせることに同意しました。そして、もう一度撮ったレントゲン写真を見ると、まったく信じられないようなことが起こっていました。骨折していないばかりか、外から衝撃を受けたこん跡さえなかったのです。結局のところ負傷したのは筋肉の切断と皮膚の大きな裂傷だけで、医師は傷口を縫い合わせました。サムのけがの状態が突然変化した理由は、医師には説明不可能だったようです。

手術をさらに何度か繰り返し、皮膚の移植をすれば、サムの足は元のように完全に動くようになるでしょう。

## カンボジア——平和な生活に向けて

カンボジアは小さな国ですが、そこに住む人々には偉大な精神が宿っています。宣教師とカンボジアの聖徒たちは、かつて戦場で荒れ果てた場所に平和を打ち立てようと努め、後世の人々が福音の中で繁栄できるよう道を備えているのです。■

# 罪の鎖を断ち切る



七十人  
H・ロス・ワークマン

欲求や熱情を  
犠牲にすることが、  
束縛から  
解放されるための  
鍵です。

**奴**隷制度という邪悪な慣習は、世界の歴史を通して様々な文化に存在してきました。男性、女性、子供が、商品として売買され、他人の利益のために長期間悲惨な状況に置かれていたという事実には大変驚かされます。そのような話の中で描写される「人間の人間に対する残虐行為」にはぞっとします。現在もお、世界に奴隷制度の存在する地域があるという報告には戦慄を覚えます。

それなのになぜ、多くの人は自ら進んで自由を放棄し、自分自身と愛する者たちをあの支配者の奴隷になるに任せているのでしょうか。人が「自分のように惨めになること」を唯一の目的としているあの支配者の奴隷に(2ニーファイ2:27)。

## 霊的に囚われる

多くの人は、囚われるとは、第三者によって牢に入れられることだと考えています。人は肉体的な束縛を嫌いますが、そうした束縛の影響が永遠に続くことはないはずで、それよりも深刻なのは、偽りの父に囚われることです。この束縛はもっと破滅的で、恐らく肉体的束縛よりも長期に及びます。注目すべきは、この霊的な束縛は自分自身の選択、つまり欲求や熱情に屈した結果であるということです。人は罪に囚われる可能性があります。また、富や名声、政治権力、社会的地位など、この世の名誉を追求することに囚われるかもしれません。あるいは

は、スポーツや音楽、娯楽などに異常なまでに没頭し、そのとりことなる可能性もあります。

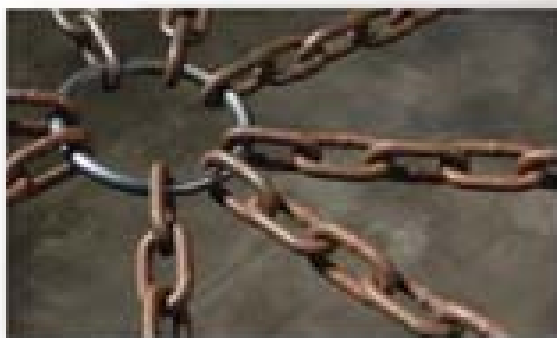
特に強い力で人を束縛するものとして、伝統が挙げられます。伝統はあらゆる文化に存在します。中には、部族的伝統が根深い国もあります。伝統の中には、文化を守り、社会秩序を確立する良いものもあります。その一方で、福音や神権政体と相いれないものもあって、それらに盲目的に従えば束縛に陥ることになります。

個人や家族の伝統にさえ、人を霊的に束縛する力があります。福音の原則に反する伝統は御霊を不快にさせます。もしそのような伝統に従えば、御霊の導きを受ける力が弱まり、何が自由を広げてくれる選択であるか、何が義にかなった選択であるかを識別する力が弱まります。例えば、安息日にかかわる家族の伝統を考えてください。大きなスポーツイベントが教会の責任と重なったら、あなたや家族はどう感じますか。不義な影響力に屈するならば、あなたの自由の幅は狭くなり、束縛を受ける危険性は高くなります。

## 一度に少しずつ

すべての「必要」なものを選択する自由は、神が御自分の子供たちに与えられた賜物です。したがって、わたしたちはキリストを通じて自由と永遠の命を選ぶことも、悪魔の力に応じて束縛と死を選ぶこともできます(2ニーファイ2:27参照)。よく言われていることですが、どのような道も望むままに選択する自由はあっても、その選択の結果を避ける自由はないのです。

1度の選択や出来事の結果、霊が束縛され



ることはまれです。一度に少しずつ誤った選択する度に自由を手放し、やがて、失った自由を取り戻す道を見失うことの方が多いのです。

あるとき、一人の若者がわたしに助けを懇願してきました。彼はポルノグラフィーにおぼれていました。家のコンピューターでアクセスしていたのです。重い罪悪感から、教会に出席することや神権者として務めを果たすことを後ろめた<sup>きた</sup>感じていました。社会生活にも支障<sup>きた</sup>を来していました。自分でも落胆と絶望しか得られないと知っているのに、強く誘惑され、何時間も一人でコンピューターの前に座って見続けました。まるで鎖につながれた奴隷のようでした。そして、この奴隷の所有者は、奴隷が自分のように惨めになることしか望んでいないのです。

**1** 度の選択や出来事の結果、  
霊が  
束縛されることは  
まれです。  
一度に少しずつ  
誤った選択をする度に  
自由を手放し、  
やがて、失った自由を  
取り戻す道を見失うことの方が  
多いのです。





**主**は忠実な人々を  
試すために  
犠牲を求められます。  
アブラハムには、  
息子イサクを  
犠牲にするよう  
求められました。  
若い金持ちの役人には  
「持ち物を売り払い、  
貧しい人々に  
施しなさい」と  
言われました。

彼はコンピューター画面の奴隷になることを、ある日突然思い立ったわけではありません。むしろそれ以前に、有害な映像を見ても「今度だけなら」害にはならないし、それで「好奇心」も満たされるだろうと思ったのです。1度が2度になり、2度が数度になり、最終的に重い依存症になり、選択の力が弱まりました。依存症に縛られてからやっと、こうなったのは自らが束縛に屈した結果であると認めたのです。

霊的な束縛に屈し続けているときは、徐々に生活から自由が奪われていることに気づかないかもしれません。しかし、霊的に束縛されればされるほど、あるいはその束縛を選んだり、許容したりすればするほど、霊的に大切な事柄を選ぶうえでの自由が狭められたと感ずるようになります。

ある人たちは、霊的な束縛を自分の思いどおりにならないものであると説明しようとして、ほんとうに思いどおりにできないものでしょうか。普通、義にかなった選択をする自由は、自分が欲しいものをどれだけ喜んで犠牲にするかで量られます。ゆえに、犠牲こそ、束縛から解放されるための原則であり、鍵なのです。

### 犠牲の模範——夫婦宣教師

肉体的、経済的に可能な夫婦は、犠牲を払って専任宣教師になるよう強く勧められています。当然ながら、健康上の理由、資金不足、そのほかの状況によって奉仕する能力は影響を受けます。しかしながら、伝道に出ない理由をよく考えてみると、この世的な欲求に縛られそうになっていたことに気づくかもしれません。家や車やボートはどうなるのだろう、投資のことが頭から離れない、旅行の計画がある、夏の別荘で楽しみたい、など、様々なものが障害となっていたら、次のように自問してください。「何にも束縛されずに伝道を選択できるだろうか。」「もしできないとしたら、それはなぜだろうか。」「この世のものに束縛されることを選んでいないだろうか。」

ある忠実な夫婦の選択について考えてください。仕事を引退して農場を購入したばかりの

二人は、伝道の召しを受け入れるようにという靈感を受けました。二人は近くに教会がまったくない村で働くよう召されました。二人は自分たちの家を建て、井戸を掘り、個人的な必要はすべて自分たちで賄い、自転車で伝道しました。非常に不便な生活の中で、教え、会員を訓練し、改宗者を福音に導いて、素晴らしい成功を収めました。

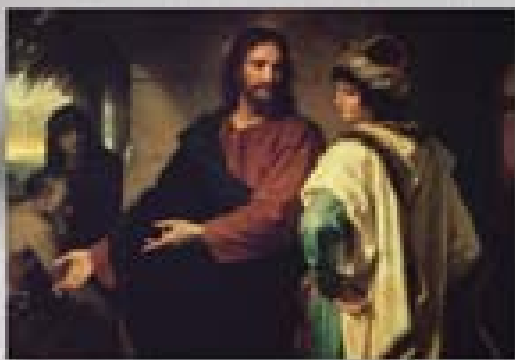
伝道中この夫婦は、故郷の家族から手紙を受け取りました。手紙には、二人が購入した農場に泥棒が入り、農具と機械類がすべて盗まれたことが報告されていました。大切な財産を取り戻すために帰って来るようにと、強く勧める内容でした。伝道部長は家に帰るかどうかを二人の判断に任せました。二人は考え、伝道地に残ることにしました。この夫婦はこの世のものに束縛されていませんでした。二人は何にも束縛されず、主への奉仕を選ぶことができました。そして、そうすることを選択したのです。

### バラムの教訓

わたしは、旧約聖書の預言者バラムの話に興味をそそられます。バラムの話は、束縛と自由について多くのことを教えてくれます。バラムとは、モーセが荒野でイスラエルの子らを導いていたころ、モアブ王国との国境付近に住んでいたイスラエルの預言者です。モアブの王バラクは、シナイを旅していたイスラエルの民に侵略されることを恐れ、バラムに助けを求め、イスラエルをのろうよう言いました。バラムはそのことについて主の御心を求めました。それに答えて主はバラムに言われました。「その民をのろってはならない。彼らは祝福された者だからである。」(民数22:12)

バラムが主の答えを告げると、王のつかさたちは大なる贈り物をもってバラムを誘惑しました。莫大な富と世の様々な名誉を与えたいのです。バラムは最初、神の御心に背くことを拒みました。しかし、モアブ人の王は富と





地位、政治的権力を与えると言って誘惑しました。王が示した栄誉への欲求が高まり、バラムは少しずつ神の召しに妥協を加えていきました。ついには、王が約束した褒美のことで頭がいっぱいになり、イスラエルの民にのろいが下るように陰謀を企てたのです(民数31:16参照)。自らの選択により、バラムは王が約束した富と権力への欲望に囚われてしまいました。こうしてバラムはイスラエルの剣によって命を落とし、かつて得ていた霊的な自由を失ってしまったのです(民数31:8参照)。

### キリストが示された模範

ある人々は、貧しさを束縛だと感じます。確かに貧困は、選択できる幅を狭めるという点で障害になるかもしれません。しかし、永遠から見れば貧困は束縛の原因ではありません。

イエスはこの地上におられたとき、ほとんど何も持たず、食べ物と日常の世話を人に頼っておられました。しかし、主は束縛されておられませんでした。主は進んで、天の御父が要求されたすべてのものを犠牲にし、御父のあらゆる戒めに従ったので、完全に自由であられました。

主は忠実な人々を試すために犠牲を求められます。アブラハムには、息子イサクを犠牲にするよう求められました。若い金持ちの役人には「持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい」と言われました(マタイ19:21)。預言者ジョセフ・スミスと開拓時代の聖徒たちは、教会を「もろもろの山のかしら」に建てるために多くのものを犠牲にしました(イザヤ2:2)。主はわたしたちにも犠牲を払うことを求めておられます。

父リーハイは、記録上、息子たちに最後に語った説教の中で、息子たちに懇願しました。「あなたがたを縛っている恐ろしい鎖を振り払いなさい。その鎖は人の子らを縛って、不幸と災いの永遠の淵に連れ去る鎖である。」(2ニーファイ1:13) この言葉は救い主の次の教えを思い出させてくれます。「すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。」(ヨハネ8:34)

それでは、どのようにすれば、霊的な束縛という「恐ろしい鎖を振り払[う]」ことができるのでしょうか。悔い改めて心を清め、主の戒めに従うという固い決意をもって救い主に頼るとき、主は、御自身の恵みを通してわたしたちの力を広げてくださいます。わたしたちが今義にかなった選択をすれば、その一つ一つの選択が、今後の義にかなった選択につながります。霊の束縛から逃れ、自由を取り戻すことは闘いであり、その道は常に易しいとは限りません。それどころか、精錬の火をくぐり抜けなければならないかもしれません。しかし贖いによって、そして、悔い改めてという大なる賜物によって、「たとい[わたしたち]の罪は緋のようであっても、雪のように白くなるの[です。]」(イザヤ1:18)

救い主は約束してくださいました。「もしわたしの言葉にうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ8:31-32) これらの原則を生活の中で実行しましょう。わたしたちはそれらが真理であると知っているのです。束縛に屈するのではなく、義にかなった選択をしましょう。そして「[救い主]の言葉のうちにとどまり」ましょう。そうすれば、わたしたちは真に自由となるのです。■

## 子供たちを見に行きなさい

メアリー・リッチ・グッドウィン

**ユ**タ州マウントにある小さな家に住んでいたわたしたちは、とても仲の良い家族でした。息子のスチュアートとチャンドラーはいつも一緒に遊び、一つの子供部屋を二人で使っていました。部屋が狭かったので、二人は一つのベッドの両端にまくら枕をおいて寝ていましたが、そのことを気にしている様子もありませんでした。二人のつま先がベッドの真ん中でぶつかりそうになってくすぐり合い、くすくす笑う声が聞こえてくることもよくありました。

しかし、そのうちに二人が成長し、ベッドが窮屈そうになってきたので、いろいろ店を回った末に、2段ベッドを買うことにしました。夫のレックスが早速その新しいベッドを組み立てると、二人の喜びようは大変なものでした。その際、4歳の兄スチュアートがベッドから転げ落ちないように、上段のベッドに板を取り付けました。弟のチャンドラーは小さいので、下の段に寝かせることにしました。家族の祈りの後、二人はうれしそうに新しいベッドには這い上がって行きました。ドア越しにくすくす笑う声や何やらささやく声が聞こえていましたが、やがて二人は眠りに就いたのか、家の中は静かになりました。

食事の後片付け、洗濯、そのほかの家事に振り回された後、わたしはレックスの手を固く握って就寝前の祈りをささげました。一日の仕事に疲れ切ったわたしは、やっとの思いでベッドにもぐり込みました。深い眠りに落ちるのには数秒もかからなかったのではないかと思います。

夜中の2時ごろに目を覚ました

わたしは、目を開けて時計を見、再び眠りに就こうとしました。そのとき、「子供たちを見に行きなさい」というとても静かな声が聞こえました。レックスが起きているのかと思い、彼の方を見ましたがぐっすりと眠っていました。目を閉じると再び「子供たちを見に行きなさい」という声が聞こえてきました。とても疲れていて、自分が起きているのかどうかも分からない状態だったわたしは、再び目を閉じて寝ようとしたのですが、

**家**族の祈りの後、  
子供たちは  
新しいベッドに  
もぐり込みました。  
そしてドア越しに  
くすくす笑う声や  
何やらひそひそ  
話す声が  
聞こえてきました。

再度「子供たちを見に行きなさい」という声が聞こえてきたのです。そのとき、以前聞いたいろいろな話、つまり静かな細い声がテーマの話であれこれと思い出しました。子供たちを見に行く理由は分かりませんでした、とにかくベッドから起き出して子供部屋の方に行きました。

真っ暗な廊下を通して台所を抜けました。辺りは静まり返っています。居間を通して子供部屋のドアの所まで来ました。すると、部屋の中からかすかな泣き声が聞こえてきました。そっとドアを開けて2段ベッドに目をやったわたしは愕然としました。チャンドラーが上段のベッドから宙づりになっていたのです。彼の細い体はマットレスと板との透き間からずれ落ち、頭だけがかるうじてそこに引っかかった状態でした。幼い体は宙づりになっていましたが、顔がマットレスの下に埋もれていたのです。泣き声は押し殺したように聞こえていたのです。スチュアートは弟が大変なことになることにまったく気づかないまま、すやすやと下の段で眠っていました。夜、わたしたちが二人をベッドに寝かせて部屋を出た後、二人は入れ替わっていたのです。

わたしは大急ぎでチャンドラーを透き間から引き出してしっかりと腕の中に抱き締めました。息子は目にいっぱい涙を浮かべ、おびえた表情でわたしの目をじっと見詰めました。息子は危うく死ぬところでした。わたしは彼を優しく揺すりながら寝かしつけ、ベッドの下段に寝ている兄の隣に寝かせました。上段のベッドからぶら下がったチャンドラーの姿が目焼きついて離れませんでした。発見するのが数分遅れたら彼の命はなかったでしょう。

眠っている二人の息子を見詰めていると、わたしたちを見守る主の御霊を感じました。そして今夜の出来事は一つの奇跡であったと気づきました。

寝室に戻ったわたしは、ひざまずいて祈りをささげ、繰り返し御霊の促しを受け、家族を守ってくださったことを、天の御父に感謝しました。■

## 決心したことに 忠実に

ジャスミン・オヘダ

**わ**たしは11歳のときに教会を知りました。集会所に初めて足を踏み入れたときは、何とも言えないすばらしい雰囲気を感じました。それから数か月間教会に通い続け、その間に12歳になったわたしは、若い女性のクラスで、個人の進歩プログラム（「成長するわたし」）を始めました。さらに2か月後の1994年8月14日にバプテスマを受けました。

12歳の少女が両親の同席もなく一人でバプテスマを受けるのはワードの人たちにとって驚きだったようです。どうしてそのようなことになったのでしょうか。バプテスマを受けてよいか尋ねると父はこう答えました。「おまえはとも頭のよい子だから、どうすべきか自分でよく分かるはずだ。」そのとき、すでにわたしの心は決まっていました。真の福音を聞いたときに感じたあのすばらしい気持ちを、これから二度と味わうことのない人生など、わたしにはあり得ないと思っていたのです。

中学・高校時代は、すばらしい時でもあり、悲しい時期でもありました。思春期には親の助けが必要だからです。両親が教会の教えにそぐわないことをしているときに、家族の中で一人だけ教会員であることはたやすいこ

とではありません。しかし、ニーファイの言葉がわたしの心に浮かびました。「最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31:20)

その後、何年かしてわたしの弟たちもバプテスマを受けましたが、両親は拒み続けました。宣教師が説得しましたが、バプテスマを受けようとはしませんでした。そのような両親の決断は、わたしにとって悲しいものでしたが、自分なりに二人に模範を示してきたつもりです。

16歳のときにフロリダ州のオーランドにある神殿に行きましたが、それはわたしの人生で経験した中で最も麗しい出来事の一つでした。一人で行ったわたしは、先祖に代わって身代わりのバプテスマを受けました。その2年後、若い女性の達成賞をもらったときの喜びはたとえようもなく、天の御父が喜んでおられると心から感じるこ



**ヒ**ンクレー大管長はわたしたちの島を訪問して、神殿に参入するように強く勧めました。わたしは神殿で永遠の結婚をしようと固く決心しました。



とができました。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長がわたしたちの住むプエルトリコの美しい島を訪れて話をしたとき、わたしは聖歌隊の一員として歌う特権にあずかりました。ヒンクレー大管長はその話の中で、隣のドミニカ共和国にある神殿に参入するようわたしたちに強く勧めました。その勧告に従って神殿に参入したわたしは、帰還宣教師と永遠の結婚をしようと固く決心しました。

その後、帰還宣教師であるふさわしい神権者と巡り会い、わたしはその目標を達成しました。わたしたちはドミニカ共和国の神殿でこの世と永遠にわたる結び固めを受けました。今では息子を授かり、わたしはステーキの若い女性会長の一員として働いています。両親はまだ教会員ではありませんが、わたしは両親に模範を示すことができるのでうれしく思っています。両親の不完全なところにこだわることなく、二人に備わっている善い特質をばくくみ、彼らが福音に導かれるようにしたいと思っています。

わたしは自分が真の教会に属していること、また、イエス・キリストが救い主であられることを知っています。ずっと祈り続けているわたしの夢は、いつの日か肉親と結び固められることです。わたしはこれほどの大きな喜びと希望を生活にもたらしてくれたこの福音を心から大切に思っています。■

## 祝 福

ジョエル・R・ブライアン

**エ**バン・ペインはカリフォルニア州のサウザンドオークスでガソリンスタンドと車の修理工場を経営していました。彼はいつも笑顔で、人の名前を覚えるのも得意

でした。顧客の名前はもとよりその子供の名前や車種までもすべて知っていました。彼は1週間に6日長時間の労働をこなしながら、人助けにも余念がありませんでした。家族の事情を抱えた10代の子供たちや伝道の準備をする青少年、あるいは帰還宣教師の青年たちに働く場を与えていました。顧客の便宜を図って朝早く店を開けたり、夜遅くまで営業したりすることもありました。町にエバン・ペインを知らない人はいないほどで、彼はだれからも愛されていました。

エバンは家庭でも教会でも忙しくしていました。妻のベッキーとの間には13歳を<sup>かしら</sup>頭に7歳まで5人の子供がいました。彼はかつて副監督を2度務め、監督としても働き、当時はステーキ会長の一員として働いていました。

エバンは若く外向的でいつもいきいきとしたスポーツマンでした。髪はこげ茶色で端整な顔立ちをしていました。スキーが大好きで、教会ではソフトボールとバスケットボールをしていました。そのエバンが白血病に冒されたと聞いてわたしは我が耳を疑いました。

その診断結果を知らされてから数か月間、家族だけでなくワード、ステーキを挙げて彼のために断食をしました。彼は抗<sup>こうがん</sup>癌剤と放射線による治療を受けました。病状がよくなる中、彼の兄弟たちは骨髄移植が可能かどうかを判定するために検査を受けました。しかし、型が一致する兄弟はいませんでした。そこで彼とベッキーは最悪の事態に備えて身の整理を始めましたが、エバンは苦しみと闘いながらも常に明るく前向きでした。つらくはないはずはありませんでしたが、彼はほとんど毎日仕事に出ていました。

ある日わたしの事務所の電話が鳴り、エバンの声が聞こえてきました。「ジョエル、今晚何か予定があるかい？君のワードの会員のところに祝福に行

きたいんだけど一緒に行ってくれないかな？」

「もちろんです。ところでだれのところですか」とわたしは尋ねました。

「サリー・カーライル(仮名)姉妹のところだよ。お年寄りだね、この町に住む娘さんを訪ねてサンディエゴから来ているんだ。ジョアン・ウィルソンという今は教会に来ていない姉妹なんだけどね。ウィルソン家のホームティーチャーと行くべきだとは思うけれど、だれなのか分からないんだ。彼女は一刻も早く祝福を必要としているらしい。すまないが車でわたしを連れて行ってくれないか？」

その家族の名前を聞いた途端わたしはいたたまれない気持ちになり、罪の意識が洪水のように押し寄せてきました。もう何か月も前からわたしはウィルソン家のホームティーチャーに割り当てられていましたが、電話1本かけることもしなかったからです。幾度となく電話をかけようと思いましたが、ちょっと立ち寄ってみようとは思いましたが、その都度あれこれ理由をつけてわたしは自分の義務をなおざりにしていたのです。わたしはエバンに7時に迎えに行くからと答えました。

車でウィルソン家に向かう途中、エバンはウィルソン家が長年にわたって彼のガソリンスタンドを利用するお得意さんであったことを話してくれました。ジョアンは教会員の家庭で育ちましたが、ヤングアダルトの時代に教会から遠のき、教会員ではないマイク・ウィルソンと結婚したのだそうです。彼らはマイクの信じる宗教の下で4人の男の子を育てました。わたしたちはインフルエンザにかかったジョアンの母親に祝福を授けるために向かっていると、エバンは説明してくれました。ジョアンがガソリンスタンドにいた彼のもとを訪れ、自宅に来てくれるように頼んだのだそうです。彼女にとってエ



バンは唯一連絡の取れる教会員だったので。

ウィルソン家に到着すると、ジョアンが玄関先でわたしたちを出迎えてくれましたが、わたしたちが母親のサリーと話をしている間、ジョアンは席を外していました。サリーは、娘が教会に戻ってくれることをどんなに望んでいるか、またマイクとジョアンが福音の祝福を受けるようにどれほど祈り続けてきたかを話してくれました。何分か話した後、わたしがサリーに油を注ぎ、

エバンが祝福を受けました。サリーの健康が快復し、慰めを受けるようにという簡潔な祝福でした。

エバンを家にする途中、神権の祝福を受ける場とともにいられたことに心から感謝しました。また、エバンのおかげでウィルソン家に訪問できたこと、そしてエバンとともに過ごす時間が与えられたことにも感謝しました。エバン・ペインはそれからわずか数か月後に亡くなりました。

それ以後、長年にわたってわたしは定期的にウィルソン家を訪問するようになりました。彼らは快くわたしを受け入れ、エバンの友人としてわたしを覚えていてくれました。初めはエバンについて、また彼がこの町にどれほどすばらしい影響を及ぼしてくれたかについて話しました。わたしは15年間ウィルソン家のホームティーチャーを務め、エバンのようにできるかぎり彼らの助けになろうと努めてきました。マイクとジョアンはわたしの良き友人となり、わたしの生活に恵みをもたらしてくれました。

ジョアンは教会に戻ることはなく、マイクもバプテスマを受けませんでした。彼らが示してくれた愛と友情はわたしにとってかけがえのないものとなりました。わたしが監督のとき、ジョアンは亡くなりました。そのとき、マイクはワードの伝道資金として多額の献金してくれました。そのお金は、10代で教会員になり、家族からの援助を受けられずに伝道に出た青年のために使われました。マイクはその若い長老が導いた多くの改宗者の生活に間接的に貢献することになったのです。

何年も前のあの晩、エバン・ペインにはわたしに何かを教えるつもりなどまったくなかったと思いますが、主の用向きに赴くことは少しも重荷にはならないことをわたしは学ぶことができました。わたしはエバンのように天の御父の子供たちに真心からの関心を示し、心を配るように努力しています。そして、エバンのように忠実で、救い主の御心みこころにかなったホームティーチャーになろうと努めています。■

**わ** たしが  
カーライル  
姉妹に  
油を注ぎ、  
エバンが祝福を  
授けました。  
彼を車で送る途中、  
エバン・ペインとともに  
過ごせたことに  
心から感謝しました。

# 一日市長

想像してみてください。あなたは10代の末日聖徒で、ペルーのトルヒーヨに住んでいます。そしてあなたは、トルヒーヨの市長になります。

ある地方紙に  
エイミー・  
アレアテギ・  
ポソについての  
記事が載った。  
写真は、  
トルヒーヨ市長と面会し、  
一日市長の  
スケジュールについて  
話し合う  
エイミー(右ページ)。

15歳で正しい決断を下すのは大変なことです。しかも、その決断が何十万人もの生活に影響するとなれば、その重圧はさらに大きくなります。エイミー・アレアテギ・ポソはそのような立場に身を置きました。エイミーは123人の学生の中から、ペルー第3の大都市トルヒーヨの市長に選ばれたのです。一日市長、ということではありましたが。

当時エイミーはペルー・トルヒーヨ・ラウレレスステーク、モウセラットワードのマイアメイドで、工業技術学校と呼ばれる中等学校に通っていました。「わたしの一つの目標は、生徒会長になることでした。その目標は達成し、夢がかないました。次の目標は『一日市長』コンテストで優勝することでした。それもついに達成しました。優勝できたのは、自分に自信を持たのおかげです。」

もちろん、優勝するために、学校と市を改善する提案をたくさん示す必要がありました。コンテストのためにそのような提案を考えるのはとても大変でしたが、提出すべき案を決めるのはとても簡単でした。エイミーはある方法で決めました。エイミーが頼りにしたその方法は、エイミーに自信を与えてくれました。その方法とは、祈りを通して尋ね、答えを得るというものです。

「何か決めるときに天の御父に祈れば、必ず

正しい選択ができます。」エイミーはそう言います。トルヒーヨ市から「一日市長」の任命を受けたときも、天の御父に祈ったおかげでその責任をよく果たすことができました。市議会は24時間、エイミーが市長として行うことを受け入れるという決定をしました。すべての契約、決定、承認は、法的な拘束力を持つことになるのです。

## 一日市長

エイミーは、10年以上トルヒーヨの市長を務めているホセ・ムルギア・ザニエル市長よりも早い午前7時半、市庁舎に到着しました。正式に市長として任命された後、エイミーはムルギア市長と面会し、その日のスケジュールを確認し、細かい調整を行いました。こうしてエイミーの市長としての忙しい一日が始まったのです。

市長の公用車に乗り、エイミーは市がスポーツ・娯楽施設を建てようと計画している公園を視察しました。その後、公立学校を訪問して校長と会談し、二つの教室の建設工

QUINCENARIO DE INFORMACIÓN, COMENTARIO E INVESTIGACIÓN

# EL HERALDO

ORGANO DE DIFUSIÓN DEL CONSORCIO EDUCATIVO MAS GRANDE DEL NORTE DEL PERU

Director: Manuel Rodríguez P.

EL HERALDO



...en conferencia de prensa  
...uchísimo por hacer... 59

...se prolonga por una ve-  
... Por ejemplo, en el caso de  
... 20. El 2000 y para conseguir  
... con otros múltiples aspectos.  
... 2000, considerando el programa,  
... con una reunión de comunicación  
... sobre el plan y los beneficios.  
... tres variables para que haya un  
... programar un problema y sucesos.  
... dados.

... con la comunicación  
... de manera que los beneficiarios  
... la disponibilidad de los recursos  
... de a fondo que falta de pro-  
... punto.

... Finalmente, el rol sería la  
... análisis de la ciudad de Santiago.  
... En el breve momento que he  
... realizado por algunos años de  
... trabajo, me he dado cuenta de la  
... necesidad de tener un  
... una institución que sea capaz de



事を視察しました。

市庁舎に戻ったエイミーは、公選弁護人事務所の役員と会談し、次いでサンホセ養護施設の所長と会談しました。エイミーはすぐに養護施設に数人の業者を派遣し、必要な修理を行うことを決定しました。エイミーはさらに財政支援を求める数校からの訪問を受けました。

記者会見で、エイミーは「未来への挑戦」という名の10代の指導者養成プログラムを設立しました。このプログラムが始まって以来、市内の100以上に及ぶ学校の10代の指導者が、教育の必要性について話し合うために市の役人と毎月会談しています。

その後エイミーは市議会の議長を務め、開会を宣言し、議員の出欠を確認しました。エイミーはさらに新しく改装された市立公園の開園式で植樹し、地域住民の要望に耳を傾けました。夜には、市内の広場で行われた文化行事に参加しました。

エイミーにとっては忙しい一日でしたが、ある地方紙はこの若い女性のことをこう評しました。「知性、落ち着き、雄弁、指導力、そして何よりも目標の高さにおいて傑出している。」

### 教育と優先順位

一日市長として働いた経験から、エイミーは自分が暮らしている地域に必要なとされる多くのことに気づきました。そのうちの一つである教育は、すでにエイミーの計画とプログラムの焦点となっていました。しかし、エイミーは学校



の重要性もさることながら、わたしたちの生活には世俗の教育よりも優先するべき側面があることを知っています。

「ここトルヒーヨはペルーの文化の中心地と考えられています。そんなトルヒーヨでは、多くの人が教会を二の次にして、勉強に力を注いでいます。」エイミーはそう語ります。「教会の若者の中には、大学の勉強を続けるために、伝道に出なかつたり、インスティテュートや教会の集会に行かなくなつたりする人が大勢います。」

そのような中、エイミーは心理学者になるために学校で熱心に勉強しながら、日曜学校の教師の召しと、自己の霊的成長に懸命に取り組んでいます。エイミーはすべてのことには時があることを理解しています。勉強する時、教会に行く時、友達や家族と楽しむ時があるのです。

これは物の見方と優先順位の問題です。エイミーはこう説明します。「預言者は青少年に可能な限りの学校教育を受けてほしいと願っています。そして主はいつもわたしたちにその方法を用意してくださっています。ですからわたしたちは、何かこの世のことをするために教会を去る必要はないのです。教育を受けるのは必要なことですが、天の御父の命じられることを行うことの方が、より重要です。」

### 仲間よりも原則を

ペルーの青少年は、世界中の青少年が直面しているのと同じ難題に立ち向かっています。ポルノグラフィ、不道徳、不正直など、この世の風潮に従うようにという誘惑は強いのです。

「ファッションや音楽など、すべての流行は厄介です。わたしたちの多くは教会員ではない人に囲まれているため、原則ではなく、周りに合わせる方が楽なこともあります。」エイミーはそう言います。標準を緩めるようにというプレッシャーに負けてはいけない、とエイ

ミーは警告します。またこうも言っています。「もう一つの問題は若い人が教会に入るとき、友達をなくす場合もあるということです。」

エイミーは、家族、ワードの会員、セミナーに友人がいて、支えが得られるので、祝福されていると感じています。これまで皆から、主に従えるように、励ましと助けを受けてきました。

### 自分の決断に自信を持つ

トルヒーヨ市長の仕事の一端を経験したエイミーは、将来に対してどのような計画を持っているのでしょうか。エイミーは次のように言います。「まずは生徒会長、たぶん次は市長、それから知事、そしてペルー初の女性大統領になりたいです。」

エイミーはこう言います。「多くの若者は、目標を設定して達成するための自信が欠けています。それは、自分がなぜ地上にいて、人生で何をすべきか理解していないからです。」福音を中心に生活することにより、エイミーは正しい望みであれば何であれ、成し遂げられるという自信ができました。

「わたしは何か決断を下すときは必ず祈って天の御父に確認します。そうすることで、御父に近づくことができました。」エイミーはそう言います。「天の御父の御霊を感じ、御父が自分の選択を認めてくださっていると知るの、とても特別なことです。御父の承認があれば、何事も必ず、いつもうまくいくと感じます。」■

## 新 間に掲載された 写真は (左ページ)

エイミーが  
改装されたばかりの  
市立公園を開園する  
様子を伝えている。  
挿入写真——  
エイミー(前列中央)と  
セミナーの仲間たち。



### 知識の源

『リアホナ』は、わたしにとって、知識の源です。日々の困難を克服するのに役立っています。2005年7月号に掲載された、ヘンリー・B・アイリング長老へのインタビュー「聖文研究について語る」は、素晴らしい内容でした。おかげで効果的に聖文を活用する方法を学ぶことができました。

ブラジル

サンドロ・エベラルド・ポンテ・マチャド

### 大切な情報源

教会に入って以来ずっと、トンガ語版『リアホナ』を愛読してきました。福音の知識と理解が増すとともに、『リアホナ』は大切な情報源となっています。わたしはインスティテュートの教師をしています。レッスンや話を準備したり、霊的な話をまとめたりする際、『リアホナ』を好んで使用しています。また、大管長会メッセージを注意深く読んでいます。大管長会が教える福音の原則と教義は、わたしにとって人生のともしびとなっています。熱心に『リアホナ』を読み、聖文を研究すると、神聖な力と聖霊の導きを感じます。そのおかげで、危険が潜むこの旅路において、細い道にとどまることができています。また、ほかの国の会員たちのニュースを読むのも楽しみにしています。

ニュージーランド

サイアトゥア・イエウラ・ファアポイ

### インターネットで読む『リアホナ』

機関誌『リアホナ』とその記事にとても感謝しています。そして、インターネット上でこの機関誌を読めることに、さらに感謝しています。どこにいても『リアホナ』を読むことができます。時々インターネットで『リアホナ』を読むことがあります。ほんとうに助かります。わたしは、インターネットで、モルモン書が全部読めるようになってほしいと思います。可能であれば、スペイン語の聖典全部を載せてもらいたいです。そうなれば、どこにいても読むことができます。

ペルー

ホセ・カラスコ・ベニテス

編集部注——『リアホナ』はインターネットに12言語で掲載されています。<http://www.lds.org>を開き、世界地図をクリックしてください。言語を選ぶことができます。スペイン語の聖典も現在、<http://www.lds.org>に掲載されています。

### 予告

あなたが教会員になったのは、最近ですか。あるいは、知り合いに新しく会員になった人がいますか。

『リアホナ』2006年10月号をどうぞお見逃しなく。新しく会員になった人のための特集号です。教会に最近入った友達がいる人は、この号を紹介したり、一緒に読んでみてください。

## ポスターの アイデア募集

下にあるのは、ポスターになる予定の写真ですが、まだタイトルも文章も決まっていません。この写真は福音の真理の何を物語っているでしょうか。ポスターの上部に入れるタイトル用に、6単語以内で短く目を引く言葉を、下部の文章用には主題を文章で書いてください。参照聖句を書いてもかまいません。過去の『リアホナ』や、今月号の24ページにあるポスターを参考にしてください。

アイデアは2006年8月15日必着で、下記までお送りください。

Liahona Poster

50 E. North Temple St. Rm. 2420

Salt Lake City, UT

84150-3220, USA

電子メールの場合——

[liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)





歴史博物館

からし

### 「嵐の中へ」 バイロン・ピクストン画

1856年から1860年の間に、10の手車隊がアイオワ州アイオワシティとネブラスカ州フローレンスを出発してソルトレーク盆地に向かった。開拓者が手車隊を編成してから150周年に当たると今年、わたしたちは彼らの旅に思いを馳せる。ほとんどの手車隊は1,000マイル(約1,600キロ)以上の道のりをほぼ無事に進んだが、

二つの手車隊はワイオミング州で例年よりも早い吹雪に襲われて立ち往生し、多数の人が命を落とした。



「わたしは……、  
永遠の父なる神と、  
その御子イエス・キリストと、  
聖霊とを信じています。  
……御三方が実在の、  
別個の御方であられるということには、  
何ら疑問の余地はありません。  
別個の御方であられることは、  
イエスがヨルダンでヨハネから  
バプテスマをお受けになったときに  
明らかにされました。」

神の御子はそこで水の中に立っておられました。

すると御父の声が聞こえて、

イエスは神の御子であると宣言されました。

また、聖霊が鳩の形を取って御姿を現みすがたされました。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「御父と御子と聖霊を信じる」2ページ参照